



(題字 大井信一 学長)

第324号

(平成3年4月・5月合併号)



▲ 富山市公会堂で行われた平成3年度入学式

目 次

| | | | |
|---|----|---------------------|--------|
| 平成2年度富山大学卒業式（学長告辞） | 3 | ◆ 平成2年度大学院修了者一覧 | 27 |
| 平成3年度富山大学入学式（学長告辞） | 6 | 寄 稿 | 海外レポート |
| 学内諸報 | | ◆ 「オックスフォード大学に滞在して」 | 32 |
| ◆ 大学院経済学研究科の第1回入学式の挙行 | 8 | — 理学部助手 西村克彦 — | |
| ◆ 次期学長候補者に小黒教授を選出 | 9 | 関係法令 | 34 |
| ◆ 平成3年度入学試験合格者の発表 | 10 | 諸 会 議 | 35 |
| ◆ 定年退職者を囲む懇談会の実施 | 12 | 学 内 規 則 | 37 |
| ◆ 部局長の選出 | 13 | 学位取得者 | 61 |
| （人文学部長、学生部長、水素同位体機能 研究センター長、地域共同研究センター長） | | 海外渡航者 | 62 |
| ◆ 新たに名誉教授5名が誕生 | 15 | 職 員 消 息 | 63 |
| ◆ 学術講演会の開催 | 18 | お 知 ら せ | 67 |
| 人事異動 | | 主 要 行 事 | 68 |
| 学 事 | | | |
| ◆ 大学院経済学研究科の発足 | 23 | | |
| ◆ 平成3年度科学研究費補助金交付内定者一覧 | 25 | | |
| ◆ 平成3年度国際交流事業基金による各種事業の 採択一覧 | 27 | | |



（表紙写真上）五福キャンパスからの北アルプス立山連峰の眺望

平成2年度富山大学卒業式の挙

平成2年度富山大学卒業証書、修了証書並びに修士学位記授与式が、平成3年3月25日(月)午前10時30分から富山市公会堂において挙

式では、先ず大井学長から、学部卒業生1,334名、専攻科修了生5名、大学院研究科修了生115名、合計1,454名に卒業(修了)証書が授与されました。引き続き、学長告辞で大井学長は、「来るべき21世紀における新しい社会の建設に当たり、1) エネルギー問題に真剣に留意し、2) 地球環境の保全に対処し、3) グローバルな変化に柔軟に対応し、対外摩擦をできる限り避けることを目標にして、今後十分努力してほしい。」とはなむけの言葉を述べました。

また、式に先立ち、本学フィルハーモニー管弦楽団によるオーケストラ演奏で卒業生の晴れの門出を祝福するとともに、式終了後は、会場の富山市公会堂ホール前で待ち構えていたサークル学生などの在学生在が、思い思いの趣向を凝らして卒業生の洋々たる前途をお祝いしていました。



卒業式学長告辞(全文)

ただいま、卒業証書、修了証書あるいは修士学位記を授与されました1,454名にのぼる諸君は、本学における所定の課程を終え、本日ここにめでたく卒業の日を迎えられた方々でありまして、教職員一同心から祝福を申し上げます。諸君の喜びもさることながら、御家族の方々のお喜びはさぞかしと推察いたします。



▲ 大井学長から卒業証書を授与される人文学部代表

諸君のうち、ほとんどの人が16年以上に及ぶ学校生活に別れを告げる時が来たわけでありませ

本学における勉学や学生生活は、その締めくくり

にふさわしい充実感と将来の展望に大きな自身を諸君に与えたものと確信しております。しかしながら、本格的情報化社会の到来とともに、産業構造は転換し生活様式が変貌するなど、人々の価値観や考え方が多様化する中で、社会システムの変化や知識の陳腐化が速い今日、社会人又は職業人として第一線で活躍するためには、さらに今後一層の研鑽が必要であります。学窓を去るに当たって新たな目標と不退転の決意を持って生涯学習の社会へ出発してください。

ところで、21世紀まであと10年という節目を迎え、新しい時代への期待感を抱かせますが、先行き不透明さから来るもどかしさ

もまたぬぐえないと思

います。冷戦構造の消滅と同時に一気に噴き出した東欧改革の波、世界経済の地域ブロック化、東南アジアを初めとする新経済圏の台頭など、いずれも世界が確実に変わり始めたことを物語っております。さらに、ハイテク、ハイタッチな科学技術の進歩やボーダーレス時代といわれる多民族社会の進展などを考えると、人間を物心両面で開放する新文明時代の到来かと思わせる一方、逆行する流れも少くないのが現実であります。

その一つは、毎月数百万単位で増え続ける世界人口を抑制する効果的な

てだてが今のところ見付からないこと

であります。西暦2000年までに世界人口は、今の

中国の人口にほぼ相当する10億人を新たに上積みするといわれており、しかもそれが貧困に苦しむ開発途上国に集中し、南北経済格差を一層、拡大する結果になっております。

つぎに、東西緊張緩和がかならずしも世界的平和環境作りに役立たず、むしろ米・ソ対立の副次的効果であった地域紛争抑止力を弱めたことは、湾岸戦争の引き金になったイラクのクウェート侵攻が如実に物語っていると思います。そのほか、経済問題や、人種、宗教、思想の対立など戦争の火種はまだ世界中のあちこちに転がっているのが現状であります。

さらに、地球環境の悪化は、一刻の猶予も許されないほど深刻になっていることは周知の事実であります。資源浪費型産業文明に酔ってきた当然の帰結であります。環境保全や改善のきめ手を欠いているのが現状であります。



▲式に先立ち本学フィルハーモニー管弦楽団によるオーケストラ演奏が行われる

これらの、さし迫った問題を考えるとき、我々人類がともに協力して、英知を搾り、これらの課題を解決するのが、自然と調和した平和共存を可能にする唯一の道でもあり、我々日本人として、個有の問題も含めてどう対処すべきか考えていかねばなりません。

その第一は、エネルギーの問題であります。エネルギー資源をほとんど持たない我が国が、中東地域の石油に頼り過ぎる状況から一日も早く脱却せねばなりません。このたびの湾岸戦争への貢献策を巡る内外の厳しい世論から考えて、今後は容易ならぬ事態が予想されます。第一次オイルショック以来、産業界における消エネ対策、利用効率の向上、エネルギー低消費型への産業構造の転換などにより、また天然ガスや原子力の利用も増えた結果、今日では石油への依存度は60%以下に下がりました。もちろん、科学技術の発展に負う

ところが極めて大きいことは言うまでもありません。これに対して、家庭や日常生活における節約効果にはほとんど見るべきものはなく、むしろ消費増加の傾向があることは厳しく反省しなければなりません。石油に替わるエネルギーとして、太陽や風力あるいは地熱などのエネルギーの利用や開発が考えられますが、何時までに、どの位の量を、どの位のコストで供給できるかという条件を満して、初めて石油に大幅に置き換え得るか否かがわかるのであって、科学技術の貢献と諸君の真剣な努力を待つ最大の課題であります。



▲ 学長告辞に聴き入る卒業生

次に、エネルギーの供給や消費と絡んで忘れてならない問題は地球環境の保全であります。先進工業国のみならず、新興工業国や発展途上国といわれる国々までも経済発展を目指して工業化に邁進しており、人口の無計画な増加とあいまって地球環境への負荷をますます増大させております。しかもこれら第三世界の貧困は環境改善などの余裕などありません。経済大国といわれる国々は、自国の対策のほかに、これらの国々の環境対策に積極的に、経済的、技術的支援を行い問題解決に協力すべき責務があらましよう。



▲ あでやかな着物姿で入場する女子卒業生

第三の問題は世界の趨勢に対応して他国との摩擦をできるかぎり避けることであります。

EC統合や米国・カナダ・メキシコの北米圏の形成などに見られるような共通の文化圏を統合しようという動きが活発になっています。国家の境界線が低くなって、文化や民族や地域主義の垣根が相対的に高くなってきたわけであります。その中で我が国は相変わらず純粋な民族国家として、純粋な近代工業社会を形成し、それを助長する政策をとり続けているわけであります。したがって世界の趨勢と我が国の純粋さのギャップは広がるばかりであります。戦後40年の間、極めて均質な国民のエネルギーが、効率、平等、安全といった狭い倫理観に立って経済復興を成し遂げてきたわけで民族の生き残りのためにはやむを得ない命題であったと思います。その結果、今日の繁栄を見たわけでありますが、それと引換えに、諸君の先輩たちは、個人の自由や選択の幅、人生の楽しみなど多くの大切なものをほとんど犠牲にしてきたことになります。豊かになっても幸せが実感できない社会、すなわち我が国の戦後文化が他の文明国と異質だということであります。経済成長と引換えに自由や幸せを犠牲にするこれまでの考え方は、欧米諸国にはなかなか理解し難いものがあり、文化の特異性を不公正な対外政策の言い訳にする

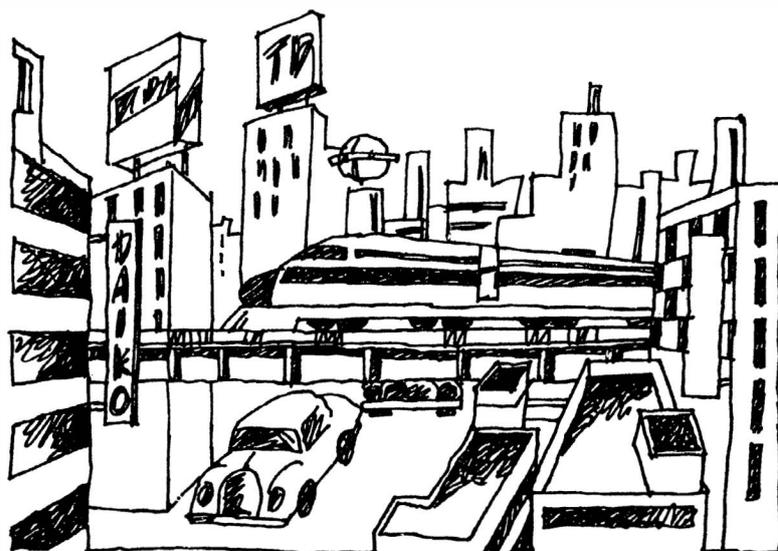
我が国に対し、今後ますます“日本たたき”が強まることが予想されます。これからは、積極的にグローバルな変化に柔軟に対応し、うまく折り合って摩擦を起こさないよう心掛けねばなりません。来るべき21世紀における新しい社会の建設に当たり、より広い倫理観に立って力一杯努力してほしいと思います。



▲ 式終了後、在学生が花束などをプレゼントし先輩の門出を祝福し、ホール前は大混雑となる

以上三つの大きな課題を諸君の今後の目標としていただければ幸いです。

最後になりましたが、どうぞくれぐれも健康に留意され、大いに活躍されんことを祈念して門出に当たったの饒けの言葉といたします。



平成3年度

富山大学入学式の挙行

平成3年度富山大学入学式が、平成3年4月10日（水）午前10時30分から富山市公会堂において挙行されました。

式では、大井学長から、学部入学生1,537名、専攻科入学生1名、大学院入学生116名、合計1,654名（うち外国人留学生34名を含む。）に入学許可宣言があった後、学長告辞で「受験勉強でやれなかった、多様な視点に立った学問の探究や人間形成に全力を傾注せよ。」と諭されました。

これに対し、新入生を代表して教育学部小学校教員養成課程 橋本恵子さんが、「学則を遵守し、学問を修め、心と体を鍛えるとともに、国際化時代に生きる者として、他国の文化を尊重し相互に理解し合う、しなやかに豊かな国際感覚を身につけた人間になるよう努力します。」と力強く宣誓しました。

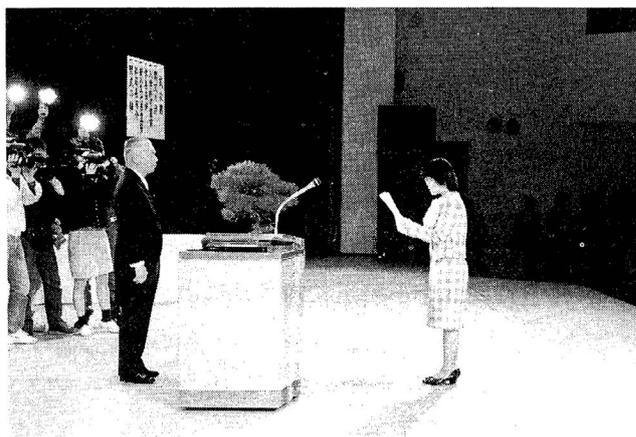
引き続き、各部局長が紹介され閉式の後、本学合唱団、ギターマンドリンクラブ、フィルハーモニー管弦楽団がそれぞれ合唱、演奏を行い、新入生を歓迎しました。

入学式学長告辞（全文）

ただいま、入学を許可されました1,654名にのぼる皆さんは、本学の各学部、大学院及び専攻科へ、めでたく入学された方々であり、本学の教職員一同、心から祝福するとともに歓迎の意を表します。難関を突破してめでたく入学された諸君や御家族の方々のお慶びはさぞかしと思います。選ばれた者の幸せと誇りを自覚するとともに、本日の感激を忘れることなく、これから4年間の充実した悔いのない大学生活を送ってほしいと思います。

さて、大学はこれまで、学術や文化の向上は言うまでもなく、豊かで活力ある社会の形式に様々な寄与をしてきました。今後の流動的かつ不透明な時代においても、学術や文化の継承に努めるとともに、技術革新、国際化・情報化の進展、産業構造の変化等に適切に対処し、社会の各方面で活躍し得る人材の養成に努めていかななくてはなりません。

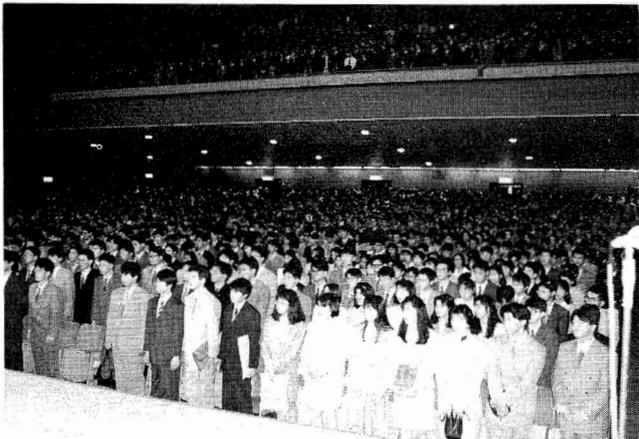
しかしながら、今日「未来投資」型の高学歴が進展するなかで、教育の量的拡大による大学の大衆化とともに、学生の質の低下や大学のレジャーランド化が社会の批判を浴びております。今日の高等教育が直面している問題の一面は、一方では科学技術文明の急速な展開に伴う高度の専門性の要求に対して、他方では、いわゆる大学の大衆化、学生層の増大とその質の多極化への対応という、現実には矛盾した要素を含んでいることでもあります。



▲ 新入生を代表して宣誓する教育学部 橋本恵子さん

大学教育は本来、個々の学生諸君がそれぞれ目的とする専門知識や自己の人格を完成するための広い知識の習得を願う本質的な学習意欲にこたえ、これを助けるものでなくてはなりません。しかしながら、最近の学生諸君の中には、自分で考え、行動し学習に取り組む積極性に欠ける嫌いがあり、教えられるだけで満足する受け身の勉強に終始する傾向が強いのは残念に思います。高校と大学の教育水準を日米間で比較すると正に逆転の構図があると言われております。我が国に比べ米国のハイスクールの教育内容には問題が多いと言われております。教育の個性化の行き過ぎから、数学や外国語など基礎学力にかかわる科目をほとんど履修せずに卒業してしまう生徒も少なくないようであります。しかし、大学や大学院の高等教育部門となると、米国の国際競争力は圧倒的に優れ、高等教育の水準の高さがはっきりしております。我が国の大学が受験勉強に明けくれた後の息抜きや、厳しい社

会へ送り出される前のモラトリアムの場とよく言われるのに対して、米国では大学は本格的な教育体験が始まる場として、また平板な教育しか受けて来なかった高校卒の普通の若者が世界のエリートへと自らの力量を開拓していく魔法の世界として機能しているとまで高く評価されております。こうして、高校卒業時には世界的な学力を誇る我が国の学生も、大学卒業時となると米国の学生に圧倒される逆転現象が見られることは誠に残念であります。大学に入ることだけを目的にした激しい受験競争に疲れた我が国の高校卒業生は大学に入ると活力を失うとともに、繁栄と安定の中で経済的豊かさに馴れて、環境変化に対する耐性の欠乏や、家庭や学校における過保護や干渉による自立の遅れなど若者の間に疲労感や無気力感が広がっているように感じます。同じ世代のうち4割に満たない諸君だけが4年間の大学生活を送る機会をつかんだ幸運に感謝するとともに「何となく過ごす」には、あまりにも貴重な学生時代を、受験勉強でやれなかった多様な視点に立った学問の探究や人間形成に全力を傾注してほしいと思います。



▲ 学長告辞に真剣な表情の新入生

明日から始まる富山大学における諸君の勉学において、これから1年半の教養課程を如何に有意義に、実り多い履修に終わらせるかがさし当たって諸君と教官との共同作業の最大の目標であります。この間、諸君は学問を通じて広い知識を身に付けるとともに、ものを見る目や自主的、総合的に考える力を養って、幅広い良識を持った、そして独立した人間として自分に責任を負うような、新しい価値観、倫理観を持った社会人としての基礎を確立しなければなりません。特に戦後教育に欠落していると言われる我が国の歴史、文化、社会などについて改めて問い直し、国際化時代に対

応して異文化との交流に深い理解を示すためにも、自国のアイデンティティを明確にすべきだと思います。また活発な課外活動を通じて体を鍛え、心を開き、先輩や同輩との交流によって多くの人間関係を作り自己の人間形成に努めてほしいと思います。心身ともに充実した教養課程を終え、全員そろって専門へ移行することを期待しています。



▲ 意も新たに入学の受付をする新入生

さて次に、大学院や専攻科に進学した諸君に一言申し添えます。諸君はそれぞれの専攻分野において研鑽を積み、各自の個性と創造性を伸ばしてほしいと思います。今日の科学技術文明の急速な展開に伴う高度の専門性の要求に対して、学部教育のみでは十分な対応は困難であります。与えられた選択肢の中から答えを選ぶのは得意かも知れませんが、既製品の答えがあるかどうかかわからない応用問題だと、果たしてどうでしょうか。研究となると応用問題よりも更に先であります。研究とは、何が問題なのかを自分で見つけ、切り開いて答えを見つければなりません。高度の専門職業人として他日を期すために、一層の学識と広い視野を身に付けることを期待します。申すまでもなく、経済的豊かさの追求のみがいたずらに先行している今日の我が国の状況は必ずしも好ましい環境ではありません。特に、科学・技術の独り歩きから発生しやすい社会的諸問題が今後ますます増大する傾向があります。こうした事態に対応するためには、人文、社会科学及び芸術などの研究や創造を活発にし、バランスのとれた住みよい社会の創設と豊かな人間性の回復を図ることが、21世紀を目指す諸君に期待されております。どうぞ一層の努力をお願いします。

簡単ではありますが、これをもってお祝いの言葉といたします。

大学院経済学研究科の第1回入学式

— 4月24日、事務局会議室で —

平成3年度に新設なった本学大学院経済学研究科（修士課程）の第1回入学式が、去る4月24日（水）午前10時30分から事務局会議室において挙行されました。

式では、大井学長から、地域・経済政策専攻6名、企業経営専攻14名、計20名（うち外国人留学生3名）の入学許可が宣言された後、学長告辞で新入生を激励

されました。

これに対し、新入生を代表して、地域・経済政策専攻 雨宮洋司さんが、「社会人をも対象にした昼夜開講制という特色ある大学院に寄せられる大きな期待に応えるよう全力投球いたします。」と力強く宣誓して式を閉じました。



▲ 第1回経済学研究科入学式（事務局会議室）



▲ 新入生を代表して宣誓する雨宮さん（社会人）

平成3年度国家公務員安全週間の実施について

期 間

平成3年7月1日（月）～7月7日（日）

趣 旨

各省庁、各機関が災害の根絶を期すために、安全管理に関する施策の充実、安全意識の高揚及び安全活動の定着を図り、職員の安全を確保することによって、公務能率の向上に資することを目的として行うものである。

本年度の標語

安全は いつでも どこでも 最優先

安全週間中の実施事項

1. 交通安全に対する意識の高揚
2. 庁舎内外の整理、整とん
3. 危険設備、危険物、機械設備等の点検整備
4. 放射性物質取扱い施設の点検整備

次期学長候補者に小黒前理学部長

— 4月16日（火）本選挙で選出される —



次期学長候補者選挙の本選挙候補者が小黒千足理学部教授1名のため、同氏の適任、不適任を問う形式となった本選挙は、去る4月16日（火）午前10時から同12時まで黒田講堂会議室において実施され、選挙結果が次のとおり公示されました。

公 示

富山大学学長選考規則第17条の規定に基づき、学長候補者選挙（本選挙）の結果について、下記のとおり公示します。

平成3年4月16日

富山大学学長候補者選挙管理委員会 印

記

| | |
|-----------|--------------------|
| 選挙資格者数 | 423名 |
| 投票者数 | 361名(不在者投票18名を含む。) |
| 有効投票数 | 344票 |
| 無効投票数 | 17票(うち白票 16票) |
| 適任とする投票数 | 327票 |
| 不適任とする投票数 | 17票 |

以上

これに基づき、同日開催の平成3年度第1回評議会において、小黒教授を次期学長候補者に決定しました。同氏の略歴等は、次のとおりです。

- (現 職) 富山大学水素同位体機能研究センター長
- (本 籍) 富山県
- (現 住 所) 富山県上新川郡大山町津羽見225
- (生年月日) 昭和5年5月28日(満61才)
- (学 歴)
- 昭和28年3月 北海道大学理学部生物学科卒業
- 28・4 北海道大学大学院理学研究科入学
- 29・8 " " 退学
- (職 歴)
- 昭和29年8月 北海道大学助 手(理学部)
- 41・4 富山大学 助 手(文理学部)
- 43・4 " 助教授(")
- 49・7 " 教 授(")
- 52・5 " " (理学部)
- 54・5 富山大学評議員併任(昭62.3まで)
- 62・4 富山大学理学部長併任(平3.3まで)
- 62・4 富山大学トリウム科学センター長併任(平2.3まで)
- 平成2・6 富山大学水素同位体機能研究センター長併任(平3.6まで)
- (学位・称号)
- 昭和28年3月 理学士
- 35・12 理学博士(北海道大学)
- (専門分野)
- 比較内分泌学、動物系統分類学
- (賞 罰)
- 昭和60年10月 日本動物学会論文賞(日本動物学会)
- 61・10 日本動物学会賞(日本動物学会)
- 62・3 富山新聞文化賞(富山新聞社)
- (学会・社会における活動)
- 昭和36年9月 文部省在外研究員(米国チューレン大学、昭38.9まで)
- 52・1 テキサステック大学(米国)客員教授(昭62.6まで)
- 54・1 " (昭64.2まで)
- 50・1～ 日本比較分泌学会 幹事
- 57・1～ 日本分類学会 評議員
- 58・1～ 日本動物学会 評議員(昭2.1～63.12除く。)
- 59・1～ 日本生物地理学会 評議員及び編集委員
- 62・1～ アジア・オセアニア比較内分泌学会評議員
- 62・1～ 国際比較分泌学会連合 評議員
- 64・1～ 日本動物学会系 Zoological Science 編集委員

平成3年度入学試験合格者の発表

3月20日（水）13時学生部前特設掲示板にて

去る3月3日（日）、4日（月）の両日に実施された平成3年度富山大学入学者選抜試験の合格者発表が、3月20日（水）午後1時本学で行われました。

合格者2,240名（理学部第2次募集を除く。）の内訳をみると、県内高等学校出身者は661名（男子286名、女子375名）で全体の32%であり、昨年の38%を6ポイント下回りました。

また、理学部の物理学科と地球科学科では定員一部留保第2次募集（定員17名）が実施され、3月30日（土）午後1時本学で合格発表が行われました。

選抜実施状況は別表のとおりです。

なお、一般選抜合格者の入学手続きは3月25日（月）から3月27日（水）まで行われ、入学定員に満たなかった学科・課程については、3月28日（木）から追加合格による欠員補充が行われ1,510名の入学者数が決定しました。

（別表は次頁のとおり。）



▲ 合格者掲示板に見入る受験生ら



▲ 小雨も関係なく合格の喜びを胴上げて祝福



(別表)

平成3年度入学者選抜実施状況

平成3年4月

| 試験日程の別 | 学部・学科等 | | 入学定員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | | 入学者数 | |
|--------|--------|------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|----------------|---------------------|---------|
| | | | | | | | うち追加合格者数 | | |
| B | 人文学部 | 人文学科 | 95 ^人 | 743 ^人 | 630 ^人 | 199 ^人 | 0 ^人 | ※1 108 ^人 | |
| | | 語学文学科 | 95 | 593 | 506 | 205 | 4 | ※2 95 | |
| | | 小計 | 190 | 1,336 | 1,136 | 404 | 4 | ※3 203 | |
| B | 教育学部 | 小教員養成課程 | 100 | 505 | 475 | 194 | 30 | 100 | |
| | | 中教員養成課程 | 50 | 393 | 366 | 109 | 13 | 50 | |
| | | 養護学課程 | 20 | 126 | 119 | 36 | 7 | 20 | |
| | | 幼稚園教員養成課程 | 30 | 205 | 192 | 49 | 14 | 30 | |
| | | 情報教育課程 | 40 | 230 | 214 | 80 | 9 | 40 | |
| | | 小計 | 240 | 1,459 | 1,366 | 468 | 73 | 240 | |
| B | 経済学部 | 昼間主 コース | 経済学科 | 159 | 831 | 727 | 243 | 14 | ※3 159 |
| | | | 経営学科 | 124 | 749 | 670 | 175 | 0 | ※11 128 |
| | | | 経営法学科 | 102 | 551 | 498 | 151 | 0 | 106 |
| | | | 小計 | 385 | 2,131 | 1,895 | 569 | 14 | ※14 393 |
| | | 夜間主 コース | 経済学科 | 20 | 63 | 63 | 36 | 8 | 20 |
| | | | 経営学科 | 20 | 63 | 63 | 35 | 5 | 20 |
| | | | 経営法学科 | 20 | 57 | 57 | 32 | 0 | 21 |
| | | | 小計 | 60 | 183 | 183 | 103 | 13 | 61 |
| | | 合計 | 445 | 2,314 | 2,078 | 672 | 27 | ※14 454 | |
| | | B | 理学部 | 数学科 | 53 | 449 | 404 | 86 | 3 |
| 物理学科 | 47 | | | 280 | 260 | 69 | 8 | 47 | |
| 化学科 | 43 | | | 154 | 138 | 68 | 2 | 43 | |
| 生物学科 | 35 | | | 241 | 213 | 46 | 3 | 35 | |
| 地球科学科 | 32 | | | 309 | 279 | 56 | 1 | 33 | |
| 小計 | 210 | | | 1,433 | 1,294 | 325 | 17 | 211 | |
| B | 工学部 | 電子情報工学科 | 132 | 900 | 787 | 190 | 33 | ※4 132 | |
| | | 機械システム工学科 | 101 | 692 | 605 | 145 | 13 | ※4 101 | |
| | | 物質工学科 | 83 | 678 | 570 | 111 | 7 | ※2 83 | |
| | | 化学生物工学科 | 86 | 745 | 611 | 131 | 13 | 86 | |
| | | 小計 | 402 | 3,015 | 2,573 | 577 | 66 | ※10 402 | |
| 総計 | | | 1,487 | 9,557 | 8,447 | 2,446 | 187 | ※27 1,510 | |

(注) ※印は、私費外国人留学生及び外国政府派遣留学生で外数である。

平成2年度定年（勸奨）退職者の 永年の労がねぎらわれる

— 教官8名、事務系8名 —

平成2年度に定年（停年）又は勸奨により本学を退職された方々を囲んで、去る3月13日（水）事務局会議室において懇談会が開催されました。

懇談会では、学長から退職者一人一人に記念品が贈呈され、引き続き、学長から、永年にわたって本学に尽くされたことへの労をねぎらう挨拶があり、次いで、退職者を代表して、有澤一男教養部教授から本学の発展を祈念するとともに永年勤続できたことに謝意が述べられました。

記念撮影の後、懇親パーティーに移り、出席された各部局長らと終始和やかな雰囲気の中に懇談が行われました。

なお、退職された方々は次のとおりです。

| | | |
|----------|-------|----------------|
| 事務局 | 文部事務官 | 結城 進 |
| 保健管理センター | 文部技官 | 大野 三代 |
| 人文学・理学部 | 文部事務官 | 永森 俊夫 |
| 〃 | 〃 | 石黒 勝夫 |
| 教育学部 | 文部教官 | 永野 弘 |
| 〃 | 〃 | 舘森 照明 |
| 〃 | 文部事務官 | 石野 俱行 |
| 〃 | | （平成3年12月31日退職） |
| 〃 | 文部技官 | 福村 一男 |
| 経済学部 | 文部教官 | 山崎 清 |
| 理学部 | 〃 | 川井 清保 |
| 工学部 | 〃 | 宮尾 嘉寿 |
| 〃 | 〃 | 高辻 雄三 |
| 〃 | 文部事務官 | 小林 武 |
| 〃 | 〃 | 田嶋 スミ |
| 教養部 | 文部教官 | 有澤 一男 |
| 〃 | 〃 | 須山 幸男 |

以上16名



次期人文学部長に平田教授を選出



三寶政美人文学部長の任期が、平成3年5月1日に満了することに伴い、人文学部教授会は3月13日（水）に次期学部長候補の選挙を行いました。

その結果、平田 純教授が選出されました。任期は、平成3年5月2日から2年間。

平田教授は、昭和27年3月東京大学文学部を卒業の後、昭和27年3月から富山県公立学校教員として勤務、昭和31年4月に富山大学文理学部講師として採用され、

昭和39年3月同助教授、昭和46年5月同教授に昇任し、昭和52年5月文理学部改組により人文学部教授となり、現在に至っています。

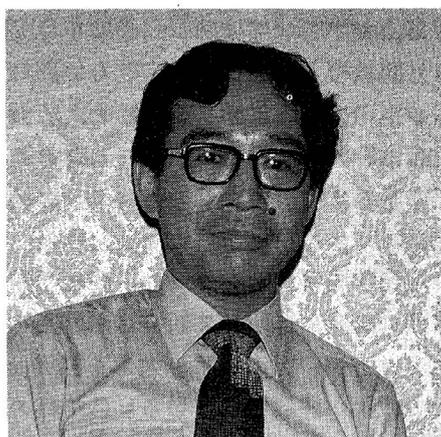
なお、この間、昭和52年5月から2年間富山大学評議員、昭和59年2月から4年間富山大学附属図書館長を勤められています。

専門は英語学、富山県出身。

なお、平田教授は、学部長就任を迎えるに当たり、次のように抱負を語っておられます。

- 人文科学—すなわち「応用科学」を支える純粋な基礎学問としての人文科学—を学ぶことの意味は、いわゆる国際化時代に入った現在、きわめて大きいと言えます。地球上の多様な世界観・価値観を学び、異質の生活習俗に触れて、互いに認め合うことが、これからの国際社会に生きて行く上で不可欠な重要項目であります。こうした学問・学習を推進してゆく学的環境の形成に力を尽くしたいと思っています。

次期学生部長に経済学部増田教授を選出



瀧澤 弘学生部長の任期が平成3年5月8日に満了することに伴う、次期学生部長候補者の選考は、去る3月15日（金）開催の平成2年度第17回評議会において、教務委員会及び補導協議会の合同委員会から推薦された3名の本学教授のうちから選考され、経済学部増田信彦教授が選出されました。任期は、平成3年5月9日から2年間。

増田教授は、昭和39年3月大阪大学経済学部経済学科を卒業、同41年3月大阪大学大学院経済学研究科（修士課程）を修了後、アメリカ合衆国、ケース・ウェスタン・リザーブ大学大学院に在学するなどして、昭和49年5月富山大学経済学部講師に採用となり、同51年4月富山大学経済学部助教授、同60年9月富山大学経済学部教授に昇格され、現在に至っています。

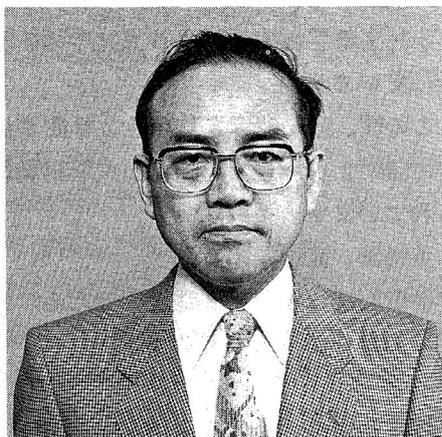
なお、この間昭和63年3月から評議員を併任されています。

専門は、資源経済学、経済学博士、広島県出身。

なお、増田教授は、学生部長就任に際して、次のように語っておられます。

- いろいろな問題があって、進展はなかなか難しいが、全学的協力のもとに、富山大学の学生がもっと魅力を感じるとともに、意欲的な学生生活を送れるような大学環境の整備に少しでも役立つことができればと考えております。

水素同位体機能研究センター長に松本教授を選出



小黑千足水素同位体機能研究センター長の辞任に伴い、水素同位体機能研究センター運営委員会は3月20日（水）に次期センター長候補者の選考を行いました。その結果、松本賢一理学部教授が選出されました。任期は、平成3年6月8日から2年間。松本教授は、昭和28年3月名古屋大学理学部を卒業、同30年3月名古屋大学大学院理学研究科修士課程を修了、同33年同大学院博士課程を修了の後、同年4月京都大学基礎物

理学研究所助手、同39年7月金沢大学理学部助教授を経て、同46年4月富山大学文理学部教授に昇任し、同52年5月文理学部改組により理学部教授となり、昭和62年4月から富山大学評議員を併任され、平成3年4月から理学部長となり現在に至っています。

専門は素粒子論、理学博士、愛知県出身。

なお、松本教授は、センター長就任に際して次のように語っておられます。

○本センターは竹内名誉教授のパイオニア的トリチウム研究の結実であったトリチウム科学センターの発展的解消に伴い、昨年6月に設立されました。そして、学内共同利用施設であるとともにこの分野の全国唯一の専門的研究機関として、基礎から応用にあたる幅広い研究が、共同利用者と専任スタッフの協力のもとで、活発に行われています。本センターの今後の発展のために、微力ながら、責を果たしたいと存じます。

今後とも、皆様の御理解と関係各位のお力添えをお願い申し上げます。

地域共同研究センター長に龍山教授を選出



宮下和雄地域共同センター長の任期が、平成3年5月20日に満了することに伴い、地域共同研究センター運営委員会は、平成3年4月8日（月）に次期地域共同開発センター長候補者の選挙を行いました。

その結果、龍山智榮工学部教授が選出されました。任期は、平成3年5月21日から2年間。

龍山教授は、昭和41年3月静岡大学工学部を卒業後、昭和43年3月静岡大学大学院工学研究科修士課程修了、

昭和47年3月大阪大学院工学研究科博士課程修了、同46年4月富山大学工学部講師、同47年6月同助教授、同57年4月同教授となり、現在に至っています。

専門は、半導体薄膜工学、工学博士。

なお、龍山教授は、新任に際して、次のように抱負を語っておられます。

○本学の地域共同研究センターは、産官学間の共同研究を目的に全国に先駆けて設立されたものであり、宮下センター長の努力により大きく発展し、全国的にもその成果が注目されている。各学部の協力を得て、さらに発展するように努めたい。

○現在のセンターの建物は、当初の計画の半分の面積しかなく、十分ではないので残りの研究棟の完成に努めたい。

○昨今の技術革新には目覚ましいものがあり、大学に対する期待もますます大きくなって来ている。外部との研究交流を通じて地域社会に貢献するとともに、大学の一層の活性化に寄与したい。

新たに5人の名誉教授が誕生

本日3月末日をもって本学を退職されました次の5氏に、平成3年4月19日付けで本学名誉教授の称号の授与が決定し、去る5月7日(火)大井学長から称号記が伝達されました。

以下に新名誉教授を紹介します。



▲ 称号記を授与された後、新名誉教授を囲んで懇談

名誉教授

山 口 博

東京都立大学院人文科学研究科

博士課程単位取得退学

文学博士



昭和36年4月富山大学講師文理学部に採用となり、同40年10月同教授、同51年8月同教授、同52年5月文理学部改組により富山大学教授人文学部、平成3年4月1日新潟大学教授人文学部へ配置換えになりました。この間、本学において30年に永きにわたり、厳正なる教育姿勢のなかにも、終始懇篤な温情をもって、学生の教育・指導に当たり、多数の優秀なる教育者・研究者の育成に貢献されました。

学内においては富山大学評議員を務め、大学の整備充実に尽力するとともに人文学部の発展に寄与されました。

一方、研究面では、『王朝歌壇の研究』等の日本の古代文学を中心とする多くの著書・論文を著わし、高く評価されました。

学会活動においては、永年、中古文学会・和歌文学会・和漢比較文学会・日本文学風土学会等の理事・委員を務め、学会の運営に参加し、学会の発展や地域社会での日本文学研究の発展に寄与されました。

国際交流基金・日本学術振興会等の派遣研究者とし

てたびたび中国を訪問、中国における日本文学研究教育に貢献されました。また、日本政府による対中国特別計画に参加、昭和60年4月から1年間にわたり日本文学研究センターの創設と指導のため中国に派遣され、帰国後はその経験を生かして、留学生の受入れと指導に多大の貢献をされました。

社会への貢献は、富山県総合計画審議会をはじめ、行政・文化の各種委員を務め、特に国土庁国土審議会委員として、高等教育機関の将来計画の審議を通じて、地域の発展に尽力されています。

名誉教授

川 井 清 保

大阪専門学校物理科卒業
理学博士



昭和38年9月富山大学助教授文理学部、同44年3月同教授、同52年5月富山大学文理学部改組により富山大学教授理学部となり、27年有余の永きにわたり、化学（構造化学）を担当し、常に厳正なる教育姿勢のなかにも、終始懇篤な温情をもって、学生の教育・指導に当たり、多数の優秀なる教育者・技術者・研究者の育成に貢献されました。

この間、学内においては、本学計算機センター長、本学情報処理センター長を務め、情報処理センターの開設・管理運営に参画し、大学の発展に尽力するとともに理学部の発展、充実に寄与されました。

一方、研究面では、金属カルボニル等着色物質のラ

マン分光や着色物質との関連からの多くの酸・塩基付加化合物やCo(III)錯体等の振動分光、共鳴ラマン分光による電子遷移の帰属等振電相互作用の解明等振動分光学の創世期におけるものであり、また、レーザーラマンスペクトルに容易に観測される格子振動に興味を持ち、多くの化合物の解析を行って、結合性や分子間相互作用等を明らかにされました。これらの研究は構造化学の分野の発展に大きく寄与し、国際的に高く評価されています。

また、日本化学会代議員、同学会賞選考委員を務めるなど、学会の発展に寄与されました。

名誉教授

宮 尾 嘉 寿

東北帝国大学工学部機械工学科卒業
工学博士



昭和22年10月富山青年師範学校授業嘱託、金沢大学講師工学部を経て、昭和32年5月富山大学助教授工学部、同39年2月富山大学教授工学部に昇任され、平成3年3月31日に限り停年により退職されました。この間本学において33年有余にわたり教育・研究に従事され、工業技術者、教育研究者等多数の人材育成に貢献されました。

同氏は、平板の応力集中問題の弾性解析や円孔を有する平板の定常熱応力の解析、さらには種々の加熱条件下における各種構造部材の非定常熱応力解析に関する理論的研究を行われ、また、高温高圧下や加工材料の腐食疲労強度等の環境強度、複数き裂の進展と分布特性及び疲労寿命に関する実験的研究を行われ、多くの成果をあげられました。この間、群円座標や双極座標を用いた弾性解析手法を考案され、また、移動熱源やクラッド複合材料の非定常熱応力などの工業的にも

有用な実機に関連した強度設計資料を提供され、さらには塩水中や高温高圧下の疲労実験手法を確立して腐食疲労強度の評価等にも寄与されました。同氏は、これらの研究成果を92編の論文として発表され、学会及び関係者から高い評価を得られました。

学内においては、附属図書館分館長、工学部工場長を勤められ、長年にわたり入学試験関係の各委員を兼任され、特に入試方法改善、工学部学科改組、大学院博士課程設置検討の各委員会に当初より参画し、富山大学の発展に貢献されました。

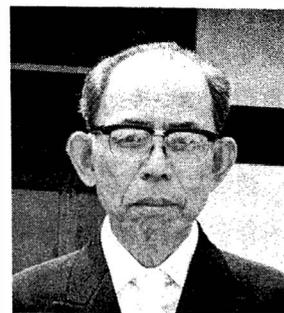
学外にあっては、日本機械学会の編修理事、同学会北陸信越支部長、同学会全国大会委員長、同学会評議員を歴任され、学会の発展と学術の新興に寄与されるとともに、富山技術開発財団専門委員として地域社会における科学技術振興にも尽力されました。

名誉教授

高 辻 雄 三

金澤工業専門学校機械科卒業

工学博士



昭和21年3月高岡工業専門学校講師、同38年8月富山大学助教授工学部を経て、同52年11月富山大学教授工学部に昇任され、平成3年3月31日限り停年により退職されました。この間本学において45年の永きにわたり教育・研究に従事され、工業技術者、教育研究者等多数の人材育成に貢献されました。

同氏は、各種金属材料の被削性の評価、切削工具の摩耗、切削及び研削加工層の残留応力の発生に関する研究を行われました。ことに、鋳造用アルミニウム-シリコン合金の切削における工具摩耗については、工具組成と被削材成分との相互拡散・置換に伴う工具の脆弱化に関する研究は、切削工具の摩耗機構の解析に新たな視点を与えるものとなりました。

同氏はこれらの研究成果を51編の論文として発表され、学会及び関係者より高い評価を得られました。

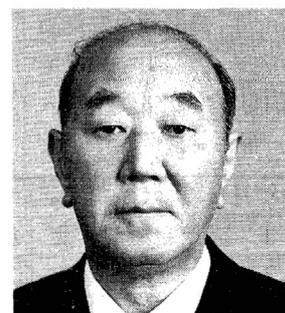
学内においては、本学評議員、実習工場長を勤められ、富山大学の管理運営に参画し、富山大学の発展に貢献されました。

一方学外にあっては、日本機械学会評議員、精密工学会理事、同学会北陸信越支部長を歴任され、学会の発展と学術振興に寄与されるとともに、地域社会においても、富山県技術アドバイザーをはじめ、富山県の主催する数種の産業振興に関する審議委員を歴任され、地域産業の発展に尽力されました。

名誉教授

有 澤 一 男

東京体育専門学校卒業



昭和24年3月東京体育専門学校を卒業後、同年5月富山大学富山師範学校文部教官、昭和25年4月兼富山大学教育学部助手、昭和26年3月富山大学教育学部助手（富山大学富山師範学校の課程廃止）、同年4月富山大学教育学部講師、昭和42年4月富山大学教養部の設置に伴い講師に配置換となり、同年9月富山大学教養部助教授、昭和45年10月富山大学教養部教授に昇任になり、平成3年3月31日限り停年により退職されました。

同氏は、本学教育学部及び教養部において、保健体育の教官として県下保健体育教員の育成にひたすら情熱を傾け、今日の県内保健体育の有能な指導者を輩出

されました。

一方、全国に誇る県山岳関係指導者との親交も厚く、富山大学の歴史に残る赤谷山遭難事件では率先してその救助隊員となり、身命を賭して捜索活動に当たられたことは余りにも有名であります。さらに、今日隆盛を極めているサッカー競技に早くから着目し、特に本学教育学部附属中学校のサッカー部をはじめ数多くの中学校に同部を創設し、今日の基盤を作った功績は多大の評価がなされているところです。

大学の教官としては、常に厳正な姿勢をもって教育に専念するとともに、授業、部活動、指導者養成には常に温顔に笑みを浮かべ慈愛をもって指導に傾注され有

為な人材の育成に尽力されました。

学術研究面では、運動生理学として水泳・登山実習における運動強度を心搏数、呼吸、体温等からその実習の及ぼす運動負荷について研究を続けるかたわら、10数年にわたって富山湾における海水温度や潮流の変化を調査研究し、遠泳における低水温が運動機能に及ぼす影響や筋力発揮からその疲労の程度について、また、高地（高山）における気象条件が脈搏、呼吸、血中ヘモグロビンに与える影響についても研究を重ね、これらの研究成果は多くの学会において発表されています。

管理運営面においては、昭和50年保健管理センターの創設に係わり、初代所長として昭和50年7月から昭和56年6月まで持前の情熱と忍耐力をもって全学の保健管理に関する業務の一本化、有機的かつ効率的な業務運営を目指し、学生の健康管理面に多大の貢献を果たされました。

さらに、昭和56年4月から平成元年4月まで評議員を務め、大学の管理運営に寄与するとともに、大学とりわけ教養部の発展、充実に多大の足跡を残されました。

学術講演会の開催（理学部）

去る4月12日（金）、理学部2号館雪氷学第2実験室（202室）で科学技術庁防災科学技術研究所新庄雪氷防災研究支所佐藤篤司主任研究官による講演会が「新庄雪氷防災研究支所の研究概要」の題目で開催されました。

講演は、日本の国土の半分以上を含む豪雪地域に共通したさまざまな雪氷問題に対する研究上のアプローチに関するもので、約20名の教官・学生が出席しました。

特に、地吹雪・屋根雪に関する研究については、最新の測器を導入した野外観察やモデル実験・低温室内実験の重要性を強調されました。また、最近の新しい研究分野として、地球環境変動の研究のための、氷床コアの連続自動解析装置の開発や、国内をはじめ諸外国との国際共同研究などについても意欲的に計画を進めていることが紹介され、出席者一同にとって極めて有意義な講演会となりました。



人 事 異 動



| 異動区分 | 発令年月日 | 氏 名 | 異動前の所属官職 | 異 動 内 容 |
|------|----------|-------|--------------------|--------------------------------------|
| 昇 任 | 3. 3. 16 | 加賀見 実 | 庶務部庶務課専門職員(研究協力担当) | 庶務部庶務課課長補佐 |
| 休職更新 | 3. 3. 13 | 大杉 登 | 文部事務官(教養部) | 休職の期間を平成3年9月12日まで更新する |
| 辞 職 | 3. 3. 31 | 石黒 勝夫 | 人文学部・理学部事務長補佐 | 辞職を承認する |
| | 〃 | 田嶋 スミ | 工学部用度係用度主任 | 〃 |
| | 〃 | 大野 三代 | 保健管理センター看護婦 | 〃 |
| 退 職 | 3. 3. 31 | 永森 俊夫 | 人文学部・理学部事務長 | 国家公務員法第31条の2第1項の規定により平成3年3月31日限り定年退職 |
| | 〃 | 小林 武 | 工学部事務長 | 〃 |
| | 〃 | 結城 進 | 経理部主計課課長補佐 | 〃 |
| | 〃 | 福村 一男 | 教育学部宮繕工 | 〃 |
| 併 任 | 3. 3. 16 | 加賀見 実 | 庶務部庶務課専門職員(研究協力担当) | 経理部主計課総務係長の併任を解除する |
| 死 亡 | 3. 3. 6 | 瀬川 慶之 | 死 亡(公務外) | |
| 採 用 | 3. 4. 1 | 鍋島 美希 | | 文部事務官(庶務部庶務課) |
| | 〃 | 川成 淳也 | | 〃 (人文学部・理学部) |
| | 〃 | 市橋希代子 | | 〃 (教育学部) |
| | 〃 | 青木 茂徳 | | 〃 (工学部) |
| 昇 任 | 3. 4. 1 | 廣瀬 義弘 | 神戸大学学生課長 | 学生部次長 |

| 異動区分 | 発令年月日 | 氏 名 | 異動前の所属官職 | 異 動 内 容 |
|------|---------|---------|----------------------|---------------------|
| 昇 任 | 3. 4. 1 | 加賀見 実 | 庶務部庶務課課長補佐 | 国立若狭湾少年自然の家庶務課長 |
| | 〃 | 長澤 義男 | 庶務部人事課課長補佐 | 教養部事務長 |
| | 〃 | 奥村喜代志 | 人文学部・理学部事務長補佐 | 附属図書館事務長 |
| | 〃 | 角井興志雄 | 厚生課専門職員（進路指導担当） | 庶務部人事課課長補佐 |
| | 〃 | 奥田 真一 | 教育学部会計係長 | 経理部主計課課長補佐 |
| | 〃 | 近岡 忠夫 | 庶務部庶務課庶務係長 | 人文学部・理学部事務長補佐 |
| | 〃 | 村中 一男 | 庶務部人事課給与係長 | 〃 〃 |
| | 〃 | 山田 知訓 | 厚生課奨学係奨学主任 | 教養部学生係長 |
| | 〃 | 清水良太郎 | 経理部経理課用度係物品管理主任 | 富山工業高等専門学校会計課出納係長 |
| | 〃 | 大西 光男 | 学生課学生係学生主任 | 富山商船高等専門学校学生課寮務係長 |
| | 〃 | 桜井 雅和 | 人文学部・理学部学務係学生主任 | 富山工業高等専門学校学生課学生係長 |
| | 〃 | 門前 剛二 | 教育学部附属学校第二係庶務主任 | 高岡短期大学事業課資料調査係長 |
| | 〃 | 能手 哲治 | 経済学部会計係会計主任 | 国立立山少年自然の家庶務課会計係長 |
| | 〃 | 向 雅己 | 教養部庶務係庶務主任 | 富山工業高等専門学校庶務課庶務係長 |
| | 〃 | 鹿島 光雄 | 教養部会計係会計主任 | 体育局生涯スポーツ課登山研修所庶務係長 |
| | 〃 | 前馬 紫津 | 文部事務官（庶務部庶務課） | 庶務部庶務課庶務係秘書主任 |
| | 〃 | 石坂 淳子 | 〃（庶務部人事課） | 庶務部人事課任用係総務主任 |
| | 〃 | 武 久美子 | 〃（人文学部・理学部） | 人文学部・理学部学務係学生主任 |
| | 〃 | 多村 節子 | 〃（経済学部） | 経済学部学生係学生主任 |
| | 〃 | 森田美喜子 | 〃（工学部） | 工学部学務係厚生主任 |
| 〃 | 高尾 貢 | 〃（教養部） | 教養部学生係厚生主任 | |
| 転 任 | 3. 4. 1 | 堀口 勲 | 富山工業高等専門学校庶務課庶務係長 | 庶務部人事課給与係長 |
| | 〃 | 河上 孝 | 高岡短期大学会計課出納係長 | 経理部経理課給与係長 |
| | 〃 | 江藤 憲和 | 富山工業高等専門学校会計課総務係長 | 施設課企画係長 |
| | 〃 | 泉田 享一 | 富山商船高等専門学校学生課教務係長 | 学生課学生係長 |
| | 〃 | 杉森 伸平 | 富山医科薬科大学教務部学生課教務第二係長 | 入学主幹付入学試験係長 |
| | 〃 | 牧野 秀應 | 富山商船高等専門学校会計課総務係長 | 教育学部附属学校第一係長 |
| | 〃 | 地崎 昇 | 国立立山少年自然の家庶務課会計係長 | 教養部会計係長 |
| | 〃 | 庄司 正文 | 文部事務官（高岡短期大学事業課） | 文部事務官（経理部経理課） |
| | 〃 | 田中 輝和 | 〃（高岡短期大学庶務課） | 〃（教育学部） |
| | 〃 | 杉本 祐文 | 〃（富山医科薬科大学教務部学生課学生係） | 〃（工学部） |
| | 〃 | 山端 憲子 | 富山医科薬科大学附属病院看護部看護婦 | 保健管理センター看護婦 |
| | 〃 | 加藤久美子 | 文部事務官（庶務部人事課） | 文部事務官（金沢大学庶務部人事課） |
| | 〃 | 加藤 尚弘 | 文部事務官（工学部） | 文部事務官（高岡短期大学庶務課） |
| | 〃 | 藤田 一吉 | 〃（ 〃 ） | 〃（高岡短期大学事業課） |
| | 配 置 換 | 3. 4. 1 | 井原 紀男 | 旭川医科大学業務部施設課長 |
| 〃 | | 瀬口 博巳 | 学生部次長 | 九州大学学生部次長 |
| 〃 | | 須藤 一靖 | 施設課長 | 東京学芸大学施設部施設課長 |
| 〃 | | 本澤 健二 | 教養部事務長 | 人文学部・理学部事務長 |
| 〃 | | 森 慶二 | 附属図書館事務長 | 工学部事務長 |
| 〃 | | 林 清治 | 教育学部附属学校第一係長 | 庶務部庶務課専門職員（研究協力担当） |
| 〃 | | 高森 諤 | 学生課学生係長 | 厚生課専門職員（進路指導担当） |
| 〃 | | 羽根 俊 | 教養部会計係長 | 工学部専門職員（研究協力担当） |
| 〃 | | 能登 功 | 教育学部庶務係長 | 庶務部庶務課庶務係長 |

| 異動区分 | 発令年月日 | 氏 名 | 異動前の所属官職 | 指 導 内 容 |
|-------|----------|------------|---------------------|-----------------------|
| 配 置 換 | 3. 4. 1 | 新田 昌六 | 経理部主計課司計係長 | 経理部主計課総務係長 |
| | " | 桶 喜一 | 経理部主計課管財係長 | 経理部主計課司計係長 |
| | " | 松本 進 | 経理部経理課給与係長 | 経理部主計課管財係長 |
| | " | 三井 進 | 人文学部・理学部学務係長 | 厚生課保健係長 |
| | " | 奥村 行夫 | 教養部教務係長 | 人文学部・理学部学務係長 |
| | " | 廣田 浩 | 入学主幹付入学試験係長 | 教育学部庶務係長 |
| | " | 田中 祥男 | 施設課企画係長 | 教育学部会計係長 |
| | " | 黒田 芳雄 | 教養部学生係長 | 教養部教務係長 |
| | " | 北川 敬信 | 工学部庶務係研究協力主任 | 庶務部庶務課学事調査係研究協力主任 |
| | " | 宮原 進 | 庶務部人事課職員係職員主任 | 庶務部人事課任用係任用主任 |
| | " | 松本 修一 | 庶務部庶務課学事調査係法規主任 | 教養部庶務係庶務主任 |
| | " | 中村 義浩 | 文部事務官(庶務部人事課) | 文部事務官(庶務部庶務課) |
| | " | 宮尾 幸一 | " (教養部) | " (庶務部人事課) |
| | " | 田村 修一 | " (工学部) | " (経理部主計課) |
| | " | 丸本理恵子 | " (教育学部) | " (経理部経理課) |
| | " | 松田 義弘 | " (") | " (") |
| | " | 田中 正博 | " (経理部主計課) | " (") |
| | " | 杉田 昇 | " (庶務部庶務課) | " (学生課) |
| | " | 伏喜 理香 | " (経理部経理課) | " (厚生課) |
| | " | 高橋 春男 | " (経済学部) | " (人文学部・理学部) |
| | " | 長崎 宏美 | " (人文学部・理学部) | " (教育学部) |
| | " | 永井 昭光 | " (") | " (") |
| | " | 畠山 節子 | " (経済学部) | " (") |
| | " | 竹田 美紀 | " (") | " (") |
| | " | 池田真紀美 | " (経理部経理課) | " (経済学部) |
| | " | 北 治夫 | " (教育学部) | " (") |
| | " | 永田 義則 | " (工学部) | " (") |
| | " | 竹内 由利 | 文部事務官(教育学部) | 文部事務官(経済学部) |
| | " | 岩永 晴雄 | " (庶務部庶務課) | " (工学部) |
| | " | 山田 勇一 | " (経理部経理課) | " (") |
| " | 高橋 知裕 | " (経済学部) | " (") | |
| " | 島田 勝弘 | " (教育学部) | " (教養部) | |
| " | 下田 誠一 | " (経理部経理課) | " (") | |
| 職務命令 | 3. 4. 1 | 岩永 晴雄 | 文部事務官(庶務部庶務課) | 庶務部庶務課学事調査係研究協力主任を免ずる |
| | " | 岩永 晴雄 | " (工学部) | 工学部用度係用度主任を命ずる |
| 辞 職 | 3. 3. 31 | 松岡 潔 | 教 授(経済学部) | 辞職を承認する |
| | " | 田村 典明 | 助 手(理学部) | " |
| | " | 稲田 篤信 | 助教授(教養部) | " |
| | " | 橋本十代一 | 教 頭(副校長)(教育学部附属小学校) | " |
| | " | 松浦 清志 | 教 諭 (" ") | " |
| | " | 小澤 溯 | " (" 附属中学校) | " |
| | " | 丹保 裕 | " (" ") | " |
| | " | 布尾 英二 | " (" 附属養護学校) | " |
| " | 安居 登 | " (" ") | " | |

| 異動区分 | 発令年月日 | 氏 名 | 異動前の所属官職 | 異 動 内 容 |
|------|----------|------------|-----------------------|--|
| 辞 職 | 〃 | 前澤 清美 | 教 諭 (教育学部附属養護学校) | 〃 |
| 退 職 | 3. 3. 31 | 館森 照明 | 教 頭(副校長)(〃 〃) | 国家公務員法第81条の2第1項の規定により 平成3年3月31日限り定年退職 |
| 併 任 | 3. 3. 31 | 山地 啓司 | 教 授 (教育学部) | 教育学部長・評議員(～5.3.30まで) |
| 採 用 | 3. 4. 1 | 田村 俊介 | | 講 師 (人文学部) |
| | 〃 | 内藤 亮一 | | 〃 (教育学部) |
| | 〃 | 小田島仁司 | | 助 手 (理学部) |
| | 〃 | 小出 眞路 | | 講 師 (工学部) |
| | 〃 | 塚田 章 | | 助 手 (〃) |
| | 〃 | 星野 一宏 | | 〃 (〃) |
| | 〃 | 二村 文人 | | 助教授 (教養部) |
| | 〃 | 宮内 伸子 | | 講 師 (〃) |
| | 〃 | 平井 宗壽 | | 教 頭(副校長)(教育学部附属小学校) |
| | 〃 | 田中 一昭 | | 教 諭 (〃 〃) |
| | 〃 | 鎌仲 徹也 | | 〃 (〃 附属中学校) |
| | 〃 | 田中 広光 | | 〃 (〃 〃) |
| | 〃 | 小柴 徹彦 | | 教 頭(副校長)(〃 附属養護学校) |
| | 〃 | 泉溪 正十 | | 教 諭 (〃 〃) |
| | 〃 | 山本富士子 | | 〃 (〃 〃) |
| 〃 | 七澤 邦彦 | | 〃 (〃 〃) | |
| 昇 任 | 3. 4. 1 | 清水 健次 | 助教授 (教育学部) | 教 授 (教育学部) |
| | 〃 | 荻原 洋 | 講 師 (〃) | 助教授 (〃) |
| | 〃 | 向後 千春 | 助 手 (〃) | 講 師 (〃) |
| | 〃 | 松井 隆幸 | 講 師 (経済学部) | 助教授 (経済学部) |
| | 〃 | 山本 弘 | 〃 (〃) | 〃 (〃) |
| | 〃 | 白石 俊輔 | 助 手 (〃) | 講 師 (〃) |
| | 〃 | 瀧 敦弘 | 〃 (名古屋大学経済学部) | 〃 (〃) |
| | 〃 | 櫻井 醇児 | 助教授 (広島大学理学部) | 教 授 (理学部) |
| | 〃 | 平井 美朗 | 助 手 (富山医科薬科大学薬学部) | 助教授 (〃) |
| | 〃 | 村井 忠邦 | 助教授 (工学部) | 教 授 (工学部) |
| | 〃 | 五嶋 孝仁 | 〃 (〃) | 〃 (〃) |
| | 〃 | 能登谷久公 | 〃 (〃) | 〃 (〃) |
| | 〃 | 岩城 敏博 | 〃 (〃) | 〃 (〃) |
| | 〃 | 長谷川 淳 | 〃 (〃) | 〃 (〃) |
| | 〃 | 井上 正美 | 〃 (〃) | 〃 (〃) |
| | 〃 | 高瀬 均 | 講 師 (〃) | 助教授 (〃) |
| | 〃 | 宮本 真敏 | 〃 (〃) | 〃 (〃) |
| | 〃 | 北野 博巳 | 〃 (京都大学工学部) | 〃 (〃) |
| | 〃 | 石原 外美 | 助 手 (工学部) | 〃 (〃) |
| | 〃 | 山田 茂 | 〃 (〃) | 〃 (〃) |
| | 〃 | 小平 憲一 | 〃 (福井医科大学医学部) | 〃 (〃) |
| 〃 | 丹保 豊和 | 〃 (工学部) | 講 師 (〃) | |
| 〃 | 西野 精一 | 助 手 (工学部) | 講 師 (工学部) | |
| 〃 | 酒井 充 | 文部技官 (〃) | 助 手 (〃) | |
| 転 任 | 3. 4. 1 | 大森 克史 | 助教授 (富山商船高等専門学校情報工学科) | 助教授 (教育学部) |

| 異動区分 | 発令年月日 | 氏 名 | 異動前の所属官職 | 異 動 内 容 |
|-------|----------|-------|-----------------------|----------------------|
| 転 任 | 3. 4. 1 | 黒田 英世 | 助教授(名古屋大学理学部附属臨海実験所) | 助教授(理学部) |
| | " | 道端 齊 | " (理学部) | " (広島大学理学部附属臨海実験所) |
| | " | 桑原 道夫 | 講 師(工学部) | 講 師(富山工業高等専門学校金属工学科) |
| | " | 佐山三千雄 | 助 手(富山医科薬科大学医学部) | 助 手(工学部) |
| | " | 藤田 正春 | 国立教育研究所教科教育研究部国語教育研究室 | 助教授(教養部) |
| 配 置 換 | 3. 4. 1 | 山口 博 | 教 授(人文学部) | 教 授(新潟大学人文学部) |
| | " | 佐藤 清雄 | " (理学部) | " (横浜国立大学工学部) |
| | " | 米山 嘉治 | 文部技官(工学部) | 助 手(工学部) |
| 退 職 | 3. 4. 1 | 永野 弘 | 教 授(教育学部) | 平成3年3月31日限り停年により退職した |
| | " | 山崎 清 | " (経済学部) | " |
| | " | 川井 清保 | " (理学部) | " |
| | " | 宮尾 嘉壽 | " (工学部) | " |
| | " | 高辻 雄三 | " (") | " |
| | " | 有沢 一男 | " (教養部) | " |
| | " | 須山 幸男 | " (") | " |
| 併 任 | 3. 4. 1 | 松本 賢一 | 教 授(理学部) | 理学部長・評議員(～5.3.31) |
| | " | 松本 賢一 | " (") | 評議員の併任を解除する |
| | " | 風巻 紀彦 | " (") | " (～3.5.1) |
| | " | 吉田 和夫 | " (教養部) | " (～5.3.31) |
| 採 用 | 3. 4. 1 | 山本 弘美 | | 事務補佐員(人文学部・理学部) |
| | " | 上野 美幸 | | " (") |
| | " | 柴田千賀子 | | " (工学部) |
| | " | 金澤 智子 | | 教務補佐員(教養部) |
| 退 職 | 3. 4. 1 | 北川 順子 | 事務補佐員(人文学部・理学部) | 平成3年3月31日限り退職した |
| | " | 福島 久恵 | " (工学部) | " |
| | " | 高田 智子 | " (") | " |
| | " | 荒井恵美子 | 教務補佐員(教養部) | " |
| | " | 河崎多紀子 | 事務補佐員(附属図書館) | " |
| 辞 職 | 3. 3. 20 | 西田 忍 | 事務補佐員(人文学部・理学部) | 辞職を承認する |
| 採 用 | 3. 4. 8 | 福村 一男 | | 臨時用務員(教育学部作業員) |
| | 3. 4. 11 | 伊藤 克江 | | 事務補佐員(附属図書館) |
| | " | 太田 茂徳 | | " (") |
| | " | 林 敏和 | | " (") |
| | 3. 4. 22 | 竹井 公子 | | 臨時用務員(教育学部作業員) |
| | " | 福島 春代 | | " (") |
| | " | 中村 繁之 | | 事務補佐員(附属図書館) |
| 昇 任 | 3. 4. 16 | 高安 紀 | 助 手(理学部) | 助教授(理学部) |
| 配 置 換 | 3. 4. 12 | 武田 一夫 | 入学主幹 | 入試課長 |
| | " | 杉森 伸平 | 入学主幹付入学試験係長 | 入試課入学試験係長 |
| | " | 湯浅 健一 | 入学主幹付入学試験係入学試験主任 | 入試課入学試験係入学試験主任 |
| | " | 石塚 久博 | 文部事務官(入学主幹付) | 文部事務官(入試課) |
| | " | 酒井美代子 | 事務補佐員(入学主幹付) | 事務補佐員(入試課) |
| 併 任 | 3. 4. 2 | 多々 静夫 | 教 授(工学部) | 工学部長・評議員(～5.4.1) |
| | " | 多々 静夫 | " (") | 評議員の併任を解除する |
| | " | 宮下 和雄 | " (") | 評議員(～3.5.31) |
| | 3. 4. 25 | 駒城 鎮一 | " (教養部) | " (～5.4.24) |

学 事

富山大学大学院 経済学研究科（修士課程） 平成3年度から発足

かねて設置が計画され、本年2月に大学設置・学校法人審議会大学設置分科会の実地審査を受けた富山大学大学院経済学研究科（修士課程）が、計画どおりに平成3年度からスタートした。

同経済学研究科は、地域・経済政策専攻と企業経営専攻の2専攻から成り、入学定員は各4名、計8名となっている。また、地域・経済政策専攻は経済学部の経済学科を基礎とした4大講座、企業経営専攻は学部の経営学科及び経営法学科を基礎とした6大講座、合計10大講座の構成であり、教官組織は、専任教員37名、非常勤講師3名、合計40名で発足した。

本研究科は、このように多くの担当教官を擁し、経済学、経営学、法学という社会科学の主要な分野を広範囲に、かつ、学際的に教育・研究することができるという他に余り類を見ない特徴を備えている。（別表のとおり）

設置の目的としてあげられたのは、(1)職場の第一線で働いている企業人や公務員などが専門的能力・知識を修得するための再教育をすること、(2)地域の中学校、高等学校、専修学校などの教員に対して、教員免許法の改正によって修士課程修了者に専修免許が授与されるのに伴い、商業ないし社会（地理歴史と公民に分かれる予定）の教科に関する専門的な学識を修得させること、(3)大学の新卒者に対して、科学技術の進歩、経

済の国際化、社会の複雑化などに伴い要求される高度の専門的能力を有する人材を養成すること、などである。

本研究科の特色の第一は、昼夜開講制をとっていることであり、大学院設置基準第14条による教育方法の特例を2年間にわたって行うことになっている。地域の企業人・公務員・教員などの有職者が、夜間に講義や研究指導を受けて修士課程を修了できるような制度であるが、このような昼夜開講制は、学部・大学院修士課程ともに全国で増えており、大学審議会の答申の中でもこれを推進すべきであると提言されている。

特色の第二は、昼夜開講制を利用して高度の専門教育を受ける社会人を積極的に受け入れるため、入試方法に社会人特別選抜制度を定めていることである。

（経済学部）



経済学研究科の第1回入学式

— 20名が意欲に燃えて入学 —

本学経済学研究科（修士課程）の第1回入学試験が平成3年4月15日（月）に実施され、一般選抜に6名、社会人特別選抜に19名、外国人留学生特別選抜に4名の計29名が受験した。

選考の結果、合格者は一般選抜で3名、社会人特別選抜で14名、外国人留学生特別選抜で3名の合計20名になった。専攻別の内訳は、地域・経済政策専攻に9名（うち留学生1名）、企業経営専攻は11名（うち留学生2名）となっている。社会人特別選抜合格者の内

訳は、国家公務員4名、地方公務員3名、会社員4名、自営2名、私大教員1名、また、年令別では、20代が8名、30代が5名、40代が1名。外国人留学生は、台湾2名、中国1名である。

4月22、23日に合格者全員が入学手続きを行って、4月24日午前10時30分から事務局大会議室で入学式が行われた。

（経済学部）

(別表)

授業科目及び担当者一覧

(1)地域・経済政策専攻

| 授 業 科 目 | 担当教官 | 授 業 科 目 | 担当教官 |
|--------------------------|-------------|------------------------|----------------|
| 現代経済のモデル分析 特殊研究及び演習 | 教授 鱈澤晃三 | 東南アジアの経済開発 特殊研究及び演習 | 教授 藤森英男 |
| 経済変動と安定化 特殊研究及び演習 | 助教授 佐藤良一 | 金融自由化と金融政策 特殊研究及び演習 | 教授 丹羽昇 |
| 経済社会構造分析 特殊研究及び演習 | 助教授 小倉利丸 | 財政の理論と政策 特殊研究及び演習 | 助教授 古田俊吉 |
| 経済計画理論 特殊研究及び演習 | 助教授 長久良一 | 応用計量経済分析 特殊研究及び演習 | 教授 和合肇 |
| 西欧経済史 特殊研究及び演習 | 教授 武暢夫 | 労働のマクロ経済分析 特殊研究及び演習 | 教授 松川滋 |
| 日本経済史 特殊研究及び演習 | 教授 小松和生 | 労働政策 特殊研究及び演習 | 助教授 竹川慎吾 |
| 経済政策と地域産業構造論 特殊研究及び演習 | 教授 小原久治 | 労働者生活と政策 特殊研究 | 四日市大学教授 山崎清 |
| 資源計画 特殊研究及び演習 | 教授 増田信彦 | 比較社会学 特殊研究及び演習 | 助教授 飯田剛史 |
| 農業構造と地域開発 特殊研究及び演習 | 教授 中藤康俊 | | |

(2)企業経営専攻

| 授 業 科 目 | 担当教官 | 授 業 科 目 | 担当教官 |
|---------------------------|-----------------|------------------------|---------------|
| 人事戦略 特殊研究及び演習 | 助教授 澤野雅彦 | 財務会計論 特殊研究及び演習 | 教授 榊原英夫 |
| 経営管理史 特殊研究及び演習 | 助教授 水谷内徹也 | 管理会計論 特殊研究及び演習 | 助教授 武脇誠 |
| サービス経営教育論 特殊研究及び演習 | 教授 澤田利夫 | 会計監査論 特殊研究及び演習 | 金沢大学教授 大野浩 |
| リスク・マネジメント 特殊研究及び演習 | 教授 武井勲 | 現代不動産関係法 特殊研究及び演習 | 教授 吉原節夫 |
| 財務管理論 特殊研究及び演習 | 教授 田中祥子 | 金融取引法 特殊研究及び演習 | 教授 大西武士 |
| 国際経営論 特殊研究及び演習 | 教授 森園英輔 | 金融組織法 特殊研究及び演習 | 教授 泉田榮一 |
| マーケティング 特殊研究及び演習 | 教授 小島満 | 商取引法 特殊研究及び演習 | 助教授 志津田一彦 |
| 労務管理論 特殊研究及び演習 | 教授 伊藤格夫 | 経済法 特殊研究及び演習 | 教授 滝川敏明 |
| 生産管理論 特殊研究及び演習 | 助教授 太田雅晴 | 税法 特殊研究及び演習 | 助教授 岩崎政明 |
| オペレーションズ・リサーチ 特殊研究及び演習 | 教授 菊田健作 | 労使関係の変化と法 特殊研究及び演習 | 助教授 小嶋典明 |
| 情報管理論 特殊研究及び演習 | 教授 中島信之 | 雇用形態の多様化と法 特殊研究及び演習 | 助教授 唐津博 |
| 経営情報処理 特殊研究 | 高岡短大助教授 小郷直言 | | |

平成3年度科学研究費補助金交付内定者一覧

| 研究種目 | 研究代表者 | | | 研究課題 | 配分予定額(千円) | | |
|-----------|-------|-----|-------|--|-----------|-------|-------|
| | 所属 | 職 | 氏名 | | 平成3年度 | 平成4年度 | 平成5年度 |
| 重点領域研究(1) | 理学部 | 助手 | 飯田 敏 | タングステン及びモリブデン単結晶の結晶完全性評価とX線用モノクロメーターへの応用 | 2,200 | | |
| 重点領域研究(2) | " | " | 吉田 尚弘 | 生物と環境水の酸素同位体比の相関と変動 | 1,200 | | |
| " | 工学部 | 助教授 | 北野 博巳 | エバネセント波法による脂質膜界面における抗原抗体反応の速度論的研究 | 2,000 | | |
| " | 理学部 | 教授 | 桜井 醇児 | 金属人工格子の膜面内伝導現象(熱電能とその磁場効果) | 1,200 | | |
| " | " | 教授 | 高木光司郎 | 高励起状態における星間分子の分光学的研究 | 32,200 | | |
| 総合研究(A) | " | " | 広岡 公夫 | 新第三紀における日本島の古地理的変遷 | 5,400 | 7,300 | |
| " | 教養部 | 助教授 | 藤田 正春 | 外国人子女用日本語教材開発のための基礎的研究 | 3,000 | | |
| 一般研究(B) | 水素研 | 助教授 | 松山 政夫 | 広範囲トリチウム圧の非破壊測定に対する制動X線計測法の適用性 | 1,400 | | |
| " | 理学部 | " | 笹山 雄一 | 両生類のカルシトニンの生化学的、生理学的解明 | 1,100 | 900 | |
| " | 工学部 | 助教授 | 佐々木和男 | 繊維芽細胞成長因子による本能及び情動行動、学習、老化制御機構 | 2,000 | 1,200 | |
| " | 工学部 | 助手 | 高橋 隆一 | 新しい磁気記録媒体の試作と特性 | 3,800 | 2,000 | |
| " | " | 助教授 | 北野 博巳 | コロイド粒子の認識応答過程に対する粒子表面水和層の影響に関するラマン分光学的研究 | 4,600 | | |
| 一般研究(C) | 経済学部 | 助教授 | 飯田 剛史 | 在日韓国・朝鮮人社会の諸宗教とエスニシティに関する統合的研究 | 600 | | |
| " | 理学部 | 教授 | 尾島 十郎 | 交差および三環性大環状共役化合物の合成と性質に関する研究 | 600 | | |
| " | " | " | 菅井 道三 | アンセリジオーゲンにより誘導されるシダ造精器分化の解析 | 500 | | |
| " | " | 助教授 | 氏家 治 | 中部地方の玄武岩類のSr.Nd同位体組成の研究 | 600 | | |
| " | 工学部 | 講師 | 山崎登志成 | スパッタリング薄膜の組成均一性に及ぼす原子の放出角度分布の影響 | 200 | | |
| " | " | 教授 | 小泉 邦雄 | 超薄箔・微細部品の加工・供給のシステムの開発に関する研究 | 400 | | |
| " | 経済学部 | 助教授 | 西村 秀二 | 「早まった結果惹起」 | 900 | | |
| " | 理学部 | 教授 | 吉田 範夫 | 関数方程式の定性的理論 | 1,900 | | |
| " | 教養部 | 助教授 | 小林久寿雄 | 確率論とその応用的側面の研究 | 900 | | |
| " | 工学部 | 教授 | 坂井 純一 | 太陽フレアに伴う高エネルギー粒子加速機構の解明 | 1,700 | 200 | |
| " | 理学部 | 教授 | 桜井 醇児 | 電気抵抗の発散型温度変化を持つCe及びSm化合物の熱電能とその磁場変化 | 1,500 | 300 | |
| " | 教育学部 | 助教授 | 原 稔 | 可逆免疫センサーの製作とその特性 | 1,600 | | |
| " | 理学部 | 助手 | 中村 省吾 | クラミドモナスの鞭毛形態形成が異常な突然変異株の解析 | 1,100 | 600 | |

| 研究種目 | 研究代表者 | | | 研究課題 | 配分予定額(千円) | | |
|--------------|-------|-----|-------|--|-----------|-------|-------|
| | 所属 | 職 | 氏名 | | 平成3年度 | 平成4年度 | 平成5年度 |
| 〃 | 理学部 | 助教授 | 黒田 英世 | ウニ卵イノシトール三リン酸受容体の精製とそのカルシウムチャンネルとしての性質 | 2,000 | | |
| 〃 | 〃 | 助手 | 小松美英子 | ヒトデにおける固体発生と系統との関係 —下等な群、スナヒトデ属を用いての解析— | 1,600 | 500 | |
| 〃 | 工学部 | 教授 | 塩沢 和章 | セラミックス被覆膜の密着性及び強度評価に関する破壊力学的研究 | 1,600 | 400 | |
| 〃 | 〃 | 教授 | 五嶋 孝仁 | 熱衝撃環境下におけるき裂進展挙動の定量的評価 | 1,300 | | |
| 〃 | 教育学部 | 教授 | 竹内 茂彌 | 側鎖に芳香環を有する共役ジインポリマーの合成と物性に関する研究 | 2,000 | | |
| 〃 | 〃 | 教授 | 山地 啓司 | 主観的心拍数の運動処方への応用の可否に関する研究 | 1,700 | | |
| 一般研究(C)(萌) | 工学部 | 教授 | 作道 栄一 | スルフェン酸類の合成と反応 | 2,000 | | |
| 奨励研究(A) | 人文学部 | 講師 | 根津由喜夫 | 9-12世紀におけるビザンツ貴族と地域社会 | 800 | | |
| 〃 | 理学部 | 助手 | 古田 高士 | 概エルミート多様体の諸構造とリーマン幾何学的性質 | 900 | | |
| 〃 | 〃 | 〃 | 菊池 万里 | マルチンゲール不等式の確率論的側面と解析学的側面 | 900 | | |
| 〃 | 〃 | 〃 | 吉田 尚弘 | メタンと一酸化二窒素の循環に関する同位体地球化学 | 900 | | |
| 〃 | 工学部 | 〃 | 山田 昌樹 | 2,2'-ビピリジンの性質の七員環の縮環による制御 | 700 | | |
| 〃 | 教育学部 | 助教授 | 堀田 朋基 | 飛び出し角度の異なる跳躍が下肢関節の動きに及ぼす影響 | 900 | | |
| 奨励研究(A)(萌) | 〃 | 講師 | 河本 肇 | ソーシャルスキルトレーニングによる登校拒否児の行動変容プログラムの開発 | 800 | | |
| 〃 | 教養部 | 助教授 | 大川 信行 | 近代学校創始期における小学校の運動場設置基準について | 800 | | |
| 〃 | 教育学部 | 講師 | 吉田 雅巳 | 精神遅滞児授業分析システムの開発 | 600 | | |
| 試験研究(B) | 工学部 | 助手 | 高橋 隆一 | 高品質薄膜形成用トロイダルプラズマ式スパッタ装置の開発 | 8,900 | 3,000 | |
| 辞退者(在外研究のため) | | | | | | | |
| 奨励研究(A)(萌) | 理学部 | 助手 | 笹原 一世 | フィルター捕集法と色彩色差計による水中の微量成分の迅速分析に関する研究 | 900 | | |
| 転出者(福岡女子大学) | | | | | | | |
| 一般研究(C)(萌) | 理学部 | 助手 | 田村 典明 | 光合成水分解複合体におけるマンガンクラスターの形成 | 1,600 | 300 | |

平成3年度国際交流事業基金による各種事業の採択一覧

平成3年度本学国際交流事業のうち第1種海外派遣事業(B)に次の5件が採択された。

○ 第1種海外派遣事業(B)

| 部局名 | 氏名 | 職名 | 派遣期間 | 訪問先 | 研究課題 | 備考 |
|-----------------------|-------|-----|-------------------------|--|-----------------------------------|----|
| 人文学部 | 矢澤 英一 | 教授 | 3.9.13～3.9.26 (14日間) | モスクワ大学(ソ連) | ロシアにおける農奴劇場の研究 | |
| 経済学部 | 和合 肇 | 教授 | 3.4.14～3.4.21 (8日間) | パバルナホテル(スペイン) | ベイズ統計学の計量経済分析への応用 | |
| 理学部 | 川崎 一朗 | 助教授 | 3.8.12～3.8.25 (14日間) | ウィーン工科大学(オーストリア) | 日本列島近辺のサイレント/スローアース クェイク検出の試み | |
| 工学部 | 長谷川 淳 | 助教授 | 3.9.28～3.10.9 (12日間) | アルバカーキ文化センター ロスアラモス国立研究所 (アメリカ合衆国) | 酸素雰囲気下における紫外線照射HT酸化反応 | |
| 水素同位体 機能研究 センター | 渡辺 国昭 | 教授 | 3.5.31～3.6.13 (14日間) | ドイツ原子核研究所、カールスルー ヘ・コングレスセンター(ドイツ) オランダエネルギー研究所(オランダ) | 核融合炉燃料(トリチウム)の貯蔵・供給・ 回収材に関する研究 | |

なお、富山大学国際交流事業後援会は、昭和63年9月30日に解散しましたが、その後も引き続き、国際交流事業基金への寄附を受け付けていますので、御寄附くださる方は、お申し出ください。(担当：庶務課庶務係)

平成2年度富山大学大学院修了者一覧

[人文科学研究科(修士課程)]

| 専攻 | 入学年度 | 氏名 | 論文題目 |
|-------------------|-------|-------|-------------------------------------|
| 日本・東洋文化専攻 (5名) | 平成元年度 | 春日 真実 | 佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通 |
| | 〃 | 田中 道子 | 北陸の古代須恵器生産 -生産体制からみた社会的背景について- |
| | 〃 | 西野 広子 | 『暗夜行路』論 -母との一体感- 「溶ける私」をめぐって- |
| | 〃 | 播摩 美穂 | 西漢演義の成立と性格 -劍嘴閣批評『西漢通俗演義』を中心として- |
| | 〃 | 渡邊 哲 | 律令太政官機構の研究 -古代における「議」を通じて- |
| 西洋文化専攻 (3名) | 平成元年度 | 梅木 聡 | 萩原朔太郎 -朔太郎と西洋- |
| | 〃 | 岡崎 京子 | 真宗の遊行仏-富山県の勸喜光院「御影様渡し」を中心にして- |
| | 〃 | 玉寄 清二 | 意義素の特性に関する一考察 |

[理学研究科(修士課程)]

| 専 攻 | 入学年度 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|--------------------|-------|-------|--|
| 数 学 専 攻 (5名) | 平成元年度 | 狐塚 政幸 | C^n 内の領域上の双正則不変距離について |
| | " | 堂平 良一 | Point symmetries and reflections in compact symmetric spaces |
| | " | 西山 伸午 | Homogeneous structures on naturally reductive homogeneous spaces |
| | " | 飛驒喜代志 | A probabilistic version of Sarason's theorem on VMO |
| | " | 盛本 茂 | 有界領域のBergman計量について |
| 物 理 学 専 攻 (11名) | " | 上田 和浩 | 結晶傾斜法による半導体結晶の完全性の研究 |
| | " | 牛島修一郎 | $R\text{Cu}_2\text{In}$ 単結晶の物性 |
| | " | 小木曾祥明 | 酸化物高温超伝導体の熱伝導 |
| | " | 開発 武邦 | 繰り込み群方程式の固定点及びヒッグス質量とクォーク質量との関係 |
| | " | 笠置 延生 | X線高次反射トポグラフィ法によるシリコン結晶の微小欠陥の研究 |
| | " | 後藤 真宏 | マイクロ波分光による分子分光光学(メチルアルコール分子のCO伸縮振動の研究) |
| | " | 齋藤 滋 | アモルファス・結晶間の構造変化 |
| | " | 田和 文博 | 炭酸ガスレーザーを用いたシュタルク分光 |
| | " | 千野 義明 | 星間分子の実験室分光 |
| | " | 前田 昭弘 | パルスマグネットの開発とRNi系化合物への応用(Ceを含む三元系化合物の電氣的磁氣的性質の研究) |
| | " | 米山 真一 | 高階微分を含む重力場の量子論のユニタリー性回復の試み |
| 化 学 専 攻 (6名) | " | 池田 聡 | 結合分極率によるラマン強度の解析 |
| | " | 大谷内 健 | 複合系酸化物触媒のメタン酸化カップリング機能 |
| | " | 金谷 泰和 | 重合ケイ酸とアルミニウム塩を主成分とする凝集剤の開発-重合ケイ酸のキャラクタリゼーション- |
| | " | 喜多 勇人 | 振動スペクトルによるロッシェル塩の相転移の研究 |
| | " | 冨沢庫司朗 | メンブランフィルターを用いる水中の微量成分の前濃縮・定量法の開発 |
| | " | 松本 義則 | ジヒドロフラン誘導体の反応研究 |
| 生 物 学 専 攻 (10名) | " | 浅野 悟 | 無尾両生類の肝臓に対するカルシトニンの作用 |
| | " | 池上 洋美 | 孔辺細胞における原形質の流動性 |
| | " | 岩田 幸也 | 電子スピン共鳴法によるホヤのバナジウム濃縮細胞(vanadocyte)のpHの測定 |
| | " | 宇山 太郎 | モノクローナル抗体法と放射化分析法によるホヤの発生過程におけるバナジウム濃縮機構の研究 |
| | " | 岡本 賢一 | ゾウリムシ繊毛運動の制御機構 |
| | " | 蒲池 浩之 | 葉緑体における酸素発生系の再構成 |

| 専 攻 | 入学年度 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|----------------|--------|-------|---|
| | 平成元年度 | 藤岡 昭宏 | ゴマプロトプラストからの体細胞雑種作出に関する基礎的研究 |
| | 〃 | 松葉 俊宏 | 無尾両生類の血清塩イオン濃度の調節 |
| | 〃 | 森田 朱美 | ホヤの血球細胞から抽出したバナジウム結合物質 (vanadobin) のバナジウム還元能に関する生理化学的研究 |
| | 〃 | 守田 禎一 | ゴマ属の葉緑体DNAの構造とその変異の解析 |
| 地球科学専攻 (4名) | 〃 | 飯塚 義之 | 子持火山の地質と岩石 |
| | 〃 | 河相 祐子 | 餌釣黒鉱鉱床の地質及び鉱石鉱物 |
| | 〃 | 佐藤 知紀 | 復水過程における水膜の研究 |
| | 昭和63年度 | 堀ノ内 央 | 御飯火山の地質と岩石 |

[工学研究科(修士課程)]

| 専 攻 | 入学年度 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|-----------------|-------|--|--|
| 電気工学専攻 (10名) | 平成元年度 | 大野 弘 | スイッチング電源のRCスナバ回路のサージ電圧波形と高周波出力トランスの等価直列抵抗に関する研究 |
| | 〃 | 大野木重夫 | 境界要素モデルによる頭部まわり音場のシミュレーション |
| | 〃 | 下野 晃裕 | 簡易尿検査装置開発のための基礎的研究 |
| | 〃 | 武田 靖之 | 有限要素モデルによる声帯振動応答シミュレーション |
| | 〃 | 西嶋 康人 | バック・プロパゲーション法を用いた連想記憶モデルに関する研究 |
| | 〃 | 広島 紀彦 | 人間の基礎代謝系誤調節に対する計算機シミュレーション |
| | 〃 | 福田 正仁 | 境界要素法による2次元非定常音場解析 |
| | 〃 | 藤井 茂雄 | 3次元閉空間における電磁界問題の有限要素解析 |
| | 〃 | 山口 晃史 | 睡眠時における呼吸リズムの乱れに関する研究 |
| | 〃 | 山屋 浩 | 植物細胞の融合と培養過程に及ぼす電気的効果 |
| 工業化学専攻 (13名) | 〃 | 大場 正一 | ab Initio Theoretical Studies of E ₁ Reaction of Trivalent and Tetravalent Sulfur Compounds, and Rearrangement of Ethanesulfenium Ion |
| | 〃 | 岡田 篤司 | 塩素電極反応に関する研究 |
| | 〃 | 喜多 理 | 石炭の化学構造特性 |
| | 〃 | 坂 雅之 | フェナレノン類に縮環した七員環アルコールの硫酸による転位反応に関する研究 |
| | 〃 | 杉山 泰久 | アルコキシチアザインの合成と反応 |
| | 〃 | 鈴木 初彦 | 平面正方形型ニッケル(II)錯体触媒による塩化アリのエポキシ化反応 |
| 〃 | 田中 公利 | トリチウムガスの貯蔵-供給-回収用合金の探索 -Zr-Ni系合金の水素化物生成熱測定- | |

| 専 攻 | 入学年度 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|------------------|-------|-------|---|
| | 平成元年度 | 中山 寛章 | 1, 3, 5-トリアジン誘導体の熱分解反応に関する研究 |
| | " | 伏間江 弘 | 環境中におけるトリチウムガスの酸化 -紫外線効果反応の反応機構の解明- |
| | " | 宮口三千代 | 七員環を含む新規な金属配位子の合成に関する研究 |
| | " | 武藤 吉則 | Thermal Decomposition and Mass Spectra of Phosphoramidate Esters |
| | " | 村瀬 正紀 | 大気粒状物に吸着したアミノ芳香族化合物の光分解反応 |
| | " | 吉本 修一 | アルキル化による石炭の溶解 -可溶化物中の飽和成分に就いて- |
| 金属工学専攻 (13名) | " | 新家 伸一 | Ni-15Cr-8 Fe合金における超格子相及び δ 相の析出と成長 |
| | " | 尾崎 幸樹 | Si過剰型Al-1 wt%Mg ₂ Si合金の粒界すべり |
| | " | 川島 一浩 | 粒子分散型Al基複合材料の時効析出過程 |
| | " | 小池 直樹 | 塩化物水溶液からの金の湿式回収に関する電気化学的研究 |
| | " | 酒井 宏明 | Ti及びTi-6 Al-4 V合金の相変態 |
| | " | 笹谷 和男 | Ti, Ti-O. 2 Pd及びTi-5 Ta合金のdepassivation PH |
| | " | 杉原 俊英 | 純チタンの高温酸化 |
| | " | 杉本 利一 | 高硬度鋼の熱キレツの成因とレーザーによるシミュレーションに関する研究 |
| | " | 田川 義典 | Ti-Ni形状記憶合金の相変態の制御と形状記憶能 |
| | " | 長松 信也 | CVD法による酸化物超伝導薄膜の作製 |
| | " | 名切 清人 | 溶接性高張力鋼WT80の相変態微視組織 |
| | " | 向島 靖典 | 金の高純度化プロセスの開発に関する研究 |
| 機械工学専攻 (7名) | " | 矢野 雅彦 | 超硬材料の熱分析に関する研究 |
| | " | 井上 正人 | 炭素鋼のねじり腐食疲労過程における腐食疲労損傷の発生・成長挙動に関する研究 |
| | " | 井尻 良 | レーザーフラッシュ法による超伝導材料の熱定数に関する研究 |
| | " | 柏 雅一 | 平板と垂直で隙間をもつ並列2円柱の後流に関する研究 |
| | " | 神島 裕児 | ころがりすべり接触を受ける半無限体表面の近接き裂間の応力拡大係数相互干渉 |
| | " | 中林 保則 | 非定常熱線法による高温域における繊維状断熱材の有効熱伝導率に関する研究 |
| | " | 松尾 純 | 伝熱促進体を含んだ固液混合物質の有効熱伝導率に関する研究 |
| 生産機械工学専攻 (4名) | " | 吉川 竜一 | 発泡金属複合アルミニウム合金の強度特性に及ぼす化合物層の影響に関する研究 |
| | " | 伊東 雅洋 | 工業用純チタンの研削残留応力に及ぼす研削条件の影響 |
| | " | 海野 豊 | ドリル寿命に及ぼす穴明け条件の影響 |

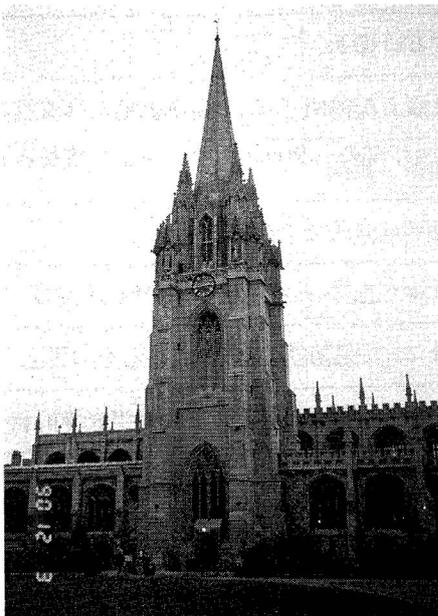
| 専 攻 | 入学年度 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|-----------------|-------|-------|--|
| | 平成元年度 | 佐藤 全佳 | ねじれ押し成形法に関する基礎研究 |
| | ” | 高畑 昌利 | 画像処理による物体の位置認識 |
| 化学工学専攻 (12名) | ” | 明瀬 哲治 | コバルト [II] 錯体による酸素の吸脱着特性 |
| | ” | 荒永 知幸 | 同体摩擦法によるぜい性砕料の温度上昇 |
| | ” | 近藤 恭史 | 種々の乱流促進体による伝熱促進 |
| | ” | 佐藤 一 | もみ乾燥におけるもみがらの物質移動抵抗 |
| | ” | 杉原 昌樹 | 連続回転円錐型容器による造粒と粉砕と分粒との同時操作—粒子偏析特性にもとづく造粒プロセスの解析— |
| | ” | 藤原 昌樹 | 二成分系の凝固過程における移動現象 |
| | ” | 牧 晃生 | 液相反応におけるチタン酸バリウム超微粉末の調製 |
| | ” | 三宅 弘 | 回転式再生熱交換器に関する研究 |
| | ” | 宮崎 修治 | 低粘度脱灰COMに関する研究 |
| | ” | 山口 賢一 | 玄米粒の熱的性質 |
| | ” | 山田 雅英 | ゲル・クロマトグラフィーにおける各成分濃度曲線と分離度 (トヨパールHW-40系) |
| | ” | 山本 平 | 回転円板法における粒子形状分離特性におよぼす操作条件の影響 |
| 電子工学専攻 (12名) | ” | 井道 義博 | 強誘電性液晶のハイブリッド配向セルにおけるメモリー特性 |
| | ” | 尾塩 浩 | 文字の変動評価に関する研究 |
| | ” | 岸田 裕司 | 分子線エピタキシー法によるBiSrCaCuO系高温超伝導薄膜の作製 |
| | ” | 蔵町 照彦 | 層状半導体GaSeとInSeの間のヘテロエピタキシャル成長と界面形成 |
| | ” | 篠崎 賢次 | Si基板上へのInSb薄膜の成長とその評価 |
| | ” | 玉川 勤 | Si(001)-2X1基板上へのSinGem歪層超格子のMBE成長 |
| | ” | 寺崎 正 | Si(001)-2X1基板上へのGe超薄膜のMBE成長とその界面 |
| | ” | 寺沢 孝志 | 強誘電性スメクチック液晶の層傾斜制御とその電気光学的特性 |
| | ” | 名倉 武之 | 誘電体円筒の近傍にあるアンテナによる電磁界に関する研究 |
| | ” | 稗田 琢文 | 文書画像理解支援システムの開発 |
| | ” | 山本 正 | 効率的かな漢字変換方式に関する研究 |
| | ” | 由雄 隆徳 | 有機薄膜EL素子の製作 |

寄稿 海外レポート①

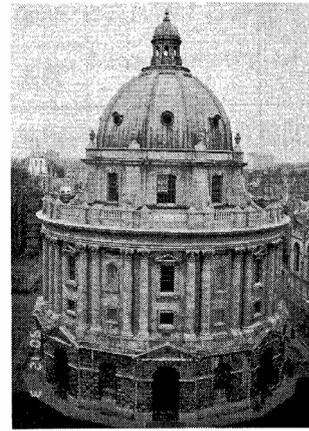
オックスフォード大学に滞在して

理学部助手 西村克彦

平成2年6月より10カ月間、文部省在外研究員として連合王国オックスフォードに滞在しました。オックスフォード市は、ロンドンの北西約100kmに位置し、人口約12万人の学園都市です。「大学の中に街がある」という形容がよくされるように、商店街を大学の施設が取り囲むような配置になっています。この配置は、大学の創立時（13世紀）からあまり変わっていないようです。その当時の建築物はもちろんのこと、それを取り囲む道や壁にも中世の雰囲気があります。市に対する大学の発言権はかなり強いようで、商店や住宅等の新たな建設は、大学側の意向により抑制されていると聞きました。これは街の景観を保存するためだけでなく、日常的な学生生活の様式までも保存するためようです。副作用として、深刻な住宅不足が持ち上がっています。約1万人のホームレスがいると聞きましたし、私の借りたアパートの家賃も東京の家賃とさほど変わりませんでした。



▲ ユニバーシティ・チャーチ
裁判所などにも使用された



▲ ラドクリフ・カメラ
図書館の一部

オックスブリッジという言葉があります。これは、オックスフォード大学とケンブリッジ大学を意味します。この2つの大学は歴史的にカレッジ制度をとっていて、いまだにそれが存続しています。各カレッジの権限は大きく、入学者の選抜、進級、卒業等に関し自主的裁判権を持っているようです。そのためオックスフォード大学というのは、35のカレッジの総称といえます。

カレッジの機能は、勉学、生活、社交とすべてに関与しています。Aレベル試験という日本の共通一次試験に相当する試験の後に、各カレッジが独自に面接や論文試験によって入学者を選抜します。教育はチューター制度といわれる個人教授が中心です。先生と学生がカレッジで寝食を共にするという中世以来の制度が原則のようですが、現在は学生だけがカレッジに住んでおり、多くの先生方は郊外の住宅地から通勤しているようです。またカレッジは、食事と住居を提供するだけでなく社交の場にもなっており、バー（酒場）、芝生のグラウンド、ボート小屋等の遊技施設も持っています。このカレッジの社交で培った人間関係が卒業後仕事の上で役立つようで、エリート育成の一役を担っているようです。私の周りにいた学生にもエリート意識があり、勉学よりも友人関係を大切にしているようでした。一年中緑色の芝生のグラウンドや立派なボート

小屋を見ていると、この国がいかにも多くの費用を教育に費やしているかがわかります。

階級意識が薄れてきていると言われていますが、他のヨーロッパ諸国に比較するとまだまだ残っているようです。例えば、カレッジのメンバーというのは、先生と学生を意味し、事務や食堂で働いている人々を含みません。このメンバー権は生涯有効で、卒業後もカレッジの宿泊施設や遊技施設を利用できます。レンタルテレビやレンタカーを借りる場合も、カレッジメンバーだと手続きが簡単なようです。つまり、カレッジのメンバーであることがステータスシンボルになっています。

一度、ストーン博士が所属するSt.Edmund Hallカレッジで先生方と夕食を食べたことがあります。食堂の中に、ハイテーブルと呼ばれる先生方の食卓があり、給仕がついてフルコースの食事を味わえるのはいいのですが、ネクタイをしめた正装をしなくてはならず、その後は遠慮して学生と一緒に食べることにしました。ハイテーブルの先生方は、黒いガウンをまとっています。

私は、ストーン博士のお世話で、クラーレンドン研究所の超低温核整列装置を用いて希土類金属間化合物の磁性を研究しました。この研究所は、ライデン研究所（オランダ）と同時期に、ヘリウム液化に成功し、世界で初めて低温核整列に成功しています。ですから、低温に関して歴史的に世界の中心的役割を果たしています。大学内における研究所の役割は、物理学の固体物理学部門の教育と研究です。教授や講師陣は40名程、大学院生が50名位、技術者や秘書が80名位だったと思います。先生と大学院生は、各カレッジからの出向のような形式をとっていて、研究所専任の先生はいないようでした。講義室では、一般の学生のために講義が行われていました。チューター制度が中心ですから、講義の受講義務はないのですが、卒業試験の問題がこれらの講義から出題されるので受講する学生が多いと私の周りの大学院生が言っていました。

研究所での生活は快適でした。世界各国から研究者や学生がきているため、秘書陣や技術者陣は外国人になれており協力的な人々が多いと感じました。組織的にも外国人を受け入れる体制が整っており、私でも自由に物品を購入することが出来ました。更に、物理学科は日本人を含めて多くの外国人講師を採用しており、ユニバーシティの名にふさわしい教育・研究体制が整っ

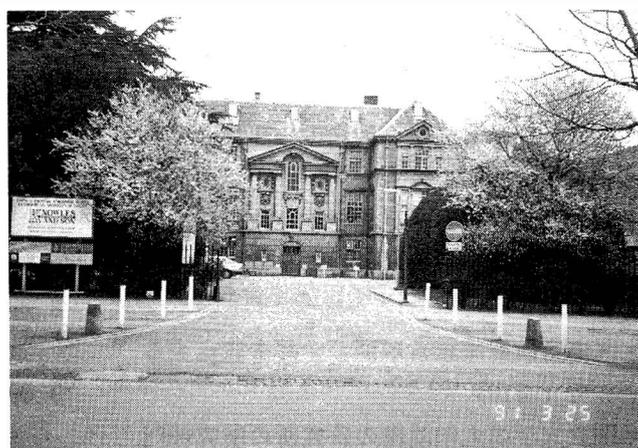
ていたと思います。



▲ 右からニック・ストーン博士、イレーナ・ストーン博士、筆者

午前11時と午後4時に20分位のお茶の時間があります。このお茶の時間という習慣のため、日本には英国人は働かないというイメージがありますが、私が会った研究所の人々はよく働いていました。特に朝が非常に早く、8時くらいに出勤していて、お茶の間は休まず働くようでした。更に、お茶の間には研究所のほとんどの人が集まって来るので情報交換に大変便利でした。

研究所の建物は、既に百年以上たっております。しかし、その内部には冷却水管、圧縮空气管、ヘリウム回収管等が張り巡らされており、最新の研究所の建物と同等の機能を備えています。このように外観を保存するため、大学では多くの配慮と費用を払っているようです。私の周囲にいた若い大学院生も、異口同音に古い建築物の良さを述べていました。



▲ クラーレンドン研究所の
タウンゼントビルディング

現在、オックスフォードの東側の郊外にロバーという国産車の工場があります。大学は、この工場建設に強行に反対したようです。自動車産業の高い賃金により、大学は、オックスフォードにおける最大の雇用者でなくなるためです。全てを中世のまま保存したいと考えている大学にとって、時代とともに変わっていく街の景観や人々の生活様式は嘆きの対象のようです。

彼の地に10か月間滞在し、速いテンポで建設と破壊を繰り返し変化していく日本の社会現象を、果して進歩といえるのだろうかという疑問を持ちました。

（筆者は、平成2年度文部省在外研究員（若手教官）として、平成2年6月1日から平成3年4月1日までの間、「超低温核整列の核磁気共鳴法による希土類金属間化合物の磁性の研究」のため、連合王国へ外国出張されました。）

関 係 法 令

法 律

- 恩給法等の一部を改正する法律（6） 3.30
- 国立学校設置法及び学校教育法の一部を改正する法律（23） 4.2
- 学校教育法等の一部を改正する法律（25） 4.2

政 令

- 旅券法施行令の一部を改正する政令（22） 3.8
- 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令（80） 3.30
- 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令（116） 4.12
- 日本体育・学校健康センター法施行令の一部を改正する政令（151） 4.26

省 令

- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令（文部1） 3.15
- 国家公務員等共済組合法施行規則の一部を改正する省令（大蔵9） 3.25
- 旅券法施行規則の一部を改正する省令（外務5） 3.28
- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（文部7） 3.29
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（同8） 3.29
- 文部省設置法施行規則の一部を改正する省令（同10） 3.30
- 国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令の一部を改正する省令（同11） 3.30

- 文部省定員規則の一部を改正する省令（同13） 4.12
- 文部省設置法施行規則の一部を改正する省令（同14） 4.12
- 国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令等の一部を改正する省令（同16） 4.12
- 大学共同利用機関組織運営規則の一部を改正する省令（同17） 4.12
- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（同19） 4.12
- 教育公務員特例法施行令第1条の規定に基づき大学院に置かれる研究科の長を定める省令の一部を改正する省令（同20） 4.12
- 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（同21） 4.12
- 日本体育・学校健康センター法施行規則の一部を改正する省令（同22） 4.30

規 則

- 人事院規則10-4（職員の保健及び安全保持）の一部を改正する人事院規則（人事院 10-4-2） 3.15
- 人事院規則9-1（非常勤職員の給与）の一部を改正する人事院規則（同9-1-7） 4.1
- 人事院規則9-2（俸給表の適用範囲）の一部を改正する人事院規則（同9-2-11） 4.1
- 人事院規則9-6（俸給の調整額）の一部を改正する人事院規則（同9-6-18） 4.1

(2) 平成3年3月卒業者及び修了者の認定について

1. 本選挙の実施案内について
2. 本選挙投票所の管理者、投票（開票）立会人及び投票所事務担当者について
3. 投票所の設置について
4. その他

第4回学長候補者選挙管理委員会（3月15日）

（議 題）

- (1) 前回記録の確認について
- (2) 本選挙の実施方法について
- (3) 本選挙の公示について
- (4) 本選挙候補者の経歴書の配付について
- (5) その他

第1回事務協議会（4月12日）

（議 題）

- (1) 当面の諸問題について

第18回評議会（臨時）（3月19日）

（審議事項）

- (1) 平成3年度富山大学入学者選抜試験合格者の判定について

第6回学長候補者選挙管理委員会（4月15日）

（議 題）

- (1) 前回記録の確認について
- (2) 本選挙不在者投票の実施状況について
- (3) 本選挙の実施について
 1. 本選挙資格者の確定について
 2. 投票用紙の確認について
 3. 本選挙投票所の管理者、投票（開票）立会人及び投票所事務担当者の確認について
 4. 投票時間の確認について
 5. 投票所の確認について
- (4) その他

第4回国際交流委員会（3月19日）

（審議事項）

- (1) 平成2年度富山大学国際交流事業基金決算について
- (2) 平成3年度富山大学国際交流事業基金予算（案）について
- (3) 平成3年度富山大学国際交流事業基金による各種事業の選択について

第7回学長候補者選挙管理委員会（4月16日）

（議 題）

- (1) 本選挙の投票結果の確認について
- (2) 本選挙結果の公示について
- (3) その他

第3回水素同位体機能研究センター運営委員会

（3月20日）

（審議事項）

- (1) 平成4年度歳出概算要求について
- (2) 研究報告投稿規定について
- (3) 専門委員会について
- (4) センター長の選考について
- (5) その他

第1回評議会（臨時）（4月16日）

（審議事項）

- (1) 次期学長候補者について
- (2) その他

第4回情報処理センター運営委員会（3月26日）

（審議事項）

- (1) 平成4年度歳出概算要求について
- (2) その他

第1回大学院委員会（4月19日）

（審議事項）

- (1) 平成3年度富山大学大学院経済学研究科（修士課程）入学試験合格者の判定について
- (2) 富山大学大学院学則の一部改正（案）について

第5回学長候補者選挙管理委員会（3月29日）

（議 題）

- (1) 前回記録の確認について
- (2) 本選挙資格者名簿の確認について
- (3) 本選挙の実施方法について

第2回評議会（4月19日）

（審議事項）

- (1) 平成3年度富山大学理学部定員一部留保第2次

募集の合格者の判定について

- (2) 富山大学名誉教授称号授与について
- (3) 富山大学学則の一部改正について
- (4) 富山大学大学院学則の一部改正について
- (5) 富山大学教育学部規則の一部改正について
- (6) 富山大学専攻科規則の一部改正について
- (7) 富山大学放射性同位元素委員会規則の一部改正について
- (8) 富山大学水素同位体機能研究センター規則の一部改正について
- (9) 富山大学廃液処理施設放射線障害予防規則の制定について
- (10) 富山大学大学教育改善検討専門委員会規則の制定について（継続）
- (11) その他

第1回放射性同位元素総合実験室運営委員会

（4月23日）

（議題）

- (1) 平成3年度総合実験室使用許可申請について
- (2) 平成2年度運営費決算及び平成3年度運営費予算（案）について
- (3) その他

第1回入学試験管理委員会・第1回入学者選抜方法研究委員会の合同委員会（4月23日）

（審議事項）

- (1) 平成4年度第10回入学試験管理委員会（持ち回り）について

(2) 平成4年度入学者選抜における大学入試センター試験の教科・科目等の利用方法について

第1回授業料等減免選考委員会（4月25日）

（議題）

- (1) 平成3年度学部入学生の入学料免除者の選考について

第1回補導協議会（4月25日）

（審議事項）

- (1) 第36回大学祭について
- (2) 第16回体育祭について
- (3) その他

第1回附属図書館商議会（4月25日）

（報告事項）

- (1) 第42回北信越地区国立大学図書館協議会について

（審議事項）

- (1) 平成3年度附属図書館運営費について
- (2) CD-ROMについて

第1回低温液化室運営委員会（4月26日）

（議題）

- (1) 運営委員長の選出について
- (2) 平成2年度低温液化室運営費決算について
- (3) 平成3年度低温液化室運営費予算（案）について
- (4) その他

学 内 規 則

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成3年3月15日

富山大学長 大井信一

富山大学学則の一部を改正する学則

富山大学学則（昭和59年3月12日制定）の一部を次のように改正する。

別表第2を次のように改める。（別添1のとおり）

別表第3を次のように改める。（別添2のとおり）

別表第4中「18,900円」を「20,900円」に、「9,500円」を「10,500円」に改める。

附 則

- この学則は、平成3年4月1日から施行する。ただし、別表第3の改正については、平成2年4月1日から適用し、平成元年度以前の入学者については、なお、従前の例による。
- 別表第2に定める総定員は、同表の規定にかかわらず、平成3年度から平成5年度までは、次のとおりとする。

| 学 部 | 学 科 等 | 平成3年度 | 平成4年度 | 平成5年度 |
|-------------|---------------------|-------|-------|-------|
| 人 文 学 部 | 人 文 学 科 | 380人 | 380人 | 380人 |
| | 語 学 文 学 科 | 380 | 380 | 380 |
| | 計 | 760 | 760 | 760 |
| 教 育 学 部 | 小 学 校 教 員 養 成 課 程 | 400 | 400 | 400 |
| | 中 学 校 教 員 養 成 課 程 | 200 | 200 | 200 |
| | 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 | 80 | 80 | 80 |
| | 幼 稚 園 教 員 養 成 課 程 | 120 | 120 | 120 |
| | 情 報 教 育 課 程 | 160 | 160 | 160 |
| | 計 | 960 | 960 | 960 |
| 経 済 学 部 | 経 済 学 科 | | | |
| | 昼 間 主 コ ー ス | 591 | 606 | 621 |
| | 夜 間 主 コ ー ス | 80 | 80 | 80 |
| | 経 営 学 科 | | | |
| | 昼 間 主 コ ー ス | 496 | 496 | 496 |
| | 夜 間 主 コ ー ス | 80 | 80 | 80 |
| | 経 営 法 学 科 | | | |
| | 昼 間 主 コ ー ス | 408 | 408 | 408 |
| 夜 間 主 コ ー ス | 80 | 80 | 80 | |
| 計 | 1,735 | 1,750 | 1,765 | |
| 理 学 部 | 数 学 科 | 182 | 192 | 202 |
| | 物 理 学 科 | 188 | 188 | 188 |
| | 化 学 科 | 172 | 172 | 172 |
| | 生 物 学 科 | 140 | 140 | 140 |
| | 地 球 科 学 科 | 128 | 128 | 128 |
| | 計 | 810 | 820 | 830 |
| 工 学 部 | 電 子 情 報 工 学 科 | 396 | 528 | 528 |
| | 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 | 202 | 303 | 404 |
| | 物 質 工 学 科 | 166 | 249 | 332 |
| | 化 学 生 物 工 学 科 | 172 | 258 | 344 |
| | 計 | 936 | 1,338 | 1,608 |
| 合 計 | 5,201 | 5,628 | 5,923 | |

- 平成3年3月31日以後引き続き在学している研究生、聴講生及び特別聴講学生に係る授業料の額は、学則その他の規則に定められた在学期間（在学期間が延長された場合で、当該延長期間の始期が平成3年4月1日以後であるものを除く。）が満了するまでの間は、従前の額とする。

別表第2

| 学 部 | 学 科 等 | 入学定員 | 総定員 |
|-------------|---------------------|-------|-------|
| 人 文 学 部 | 人 文 学 科 | 95人 | 380人 |
| | 語 学 文 学 科 | 95 | 380 |
| | 計 | 190 | 760 |
| 教 育 学 部 | 小 学 校 教 員 養 成 課 程 | 100 | 400 |
| | 中 学 校 教 員 養 成 課 程 | 50 | 200 |
| | 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 | 20 | 80 |
| | 幼 稚 園 教 員 養 成 課 程 | 30 | 120 |
| | 情 報 教 育 課 程 | 40 | 160 |
| | 計 | 240 | 960 |
| 経 済 学 部 | 経 済 学 科 | | |
| | 昼 間 主 コ ー ス | 159 | 636 |
| | 夜 間 主 コ ー ス | 20 | 80 |
| | 経 営 学 科 | | |
| | 昼 間 主 コ ー ス | 124 | 496 |
| | 夜 間 主 コ ー ス | 20 | 80 |
| | 経 営 法 学 科 | | |
| | 昼 間 主 コ ー ス | 102 | 408 |
| 夜 間 主 コ ー ス | 20 | 80 | |
| | 計 | 445 | 1,780 |
| 理 学 部 | 数 学 科 | 53 | 212 |
| | 物 理 学 科 | 47 | 188 |
| | 化 学 科 | 43 | 172 |
| | 生 物 学 科 | 35 | 140 |
| | 地 球 科 学 科 | 32 | 128 |
| | 計 | 210 | 840 |
| 工 学 部 | 電 子 情 報 工 学 科 | 132 | 528 |
| | 機 械 シ ス テ ム 工 学 科 | 101 | 404 |
| | 物 質 工 学 科 | 83 | 332 |
| | 化 学 生 物 工 学 科 | 86 | 344 |
| | 計 | 402 | 1,608 |
| 合 計 | | 1,487 | 5,948 |

備考 経済学部の「昼間主コース」とは、主として昼間に授業を行うコースを、「夜間主コース」とは、主として夜間に授業を行うコースをいう。

別表第3

| 学部名 | 学科等名 | 免許状の種類 | 免許教科 | | |
|-------------|------------------|-------------|-----------|------------|-----|
| 人文学部 | 人文学科 | 中学校教諭一種免許状 | 社会 | | |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 | | |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 公民 | | |
| | 語学文学科 | 中学校教諭一種免許状 | 国語 | | |
| | | 中学校教諭一種免許状 | 中国語 | | |
| | | 中学校教諭一種免許状 | 英語 | | |
| | | 中学校教諭一種免許状 | ドイツ語 | | |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 国語 | | |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 中国語 | | |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 英語 | | |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | ドイツ語 | | |
| | | 教育学部 | 小学校教員養成課程 | 小学校教諭一種免許状 | 国語 |
| | | | 中学校教員養成課程 | 中学校教諭一種免許状 | 社会 |
| | | | | 中学校教諭一種免許状 | 数学科 |
| 養護学校教員養成課程 | 中学校教諭一種免許状 | | 理科 | | |
| | 中学校教諭一種免許状 | | 音楽 | | |
| 幼稚園教員養成課程 | 中学校教諭一種免許状 | | 美術 | | |
| | 中学校教諭一種免許状 | | 保健体育 | | |
| | 中学校教諭一種免許状 | | 家庭 | | |
| | 中学校教諭一種免許状 | | 英語 | | |
| | 中学校教諭一種免許状 | | 技術 | | |
| | 高等学校教諭一種免許状 | | 国語 | | |
| | 高等学校教諭一種免許状 | | 地理歴史 | | |
| | 高等学校教諭一種免許状 | | 公民 | | |
| | 高等学校教諭一種免許状 | | 数学科 | | |
| | 高等学校教諭一種免許状 | 理科 | | | |
| | 高等学校教諭一種免許状 | 音楽 | | | |
| | 高等学校教諭一種免許状 | 美術 | | | |
| 高等学校教諭一種免許状 | 書道 | | | | |
| 高等学校教諭一種免許状 | 保健体育 | | | | |
| 高等学校教諭一種免許状 | 家庭 | | | | |
| 高等学校教諭一種免許状 | 英語 | | | | |
| 養護学校教諭一種免許状 | | | | | |
| 幼稚園教諭一種免許状 | | | | | |
| 経済学部 | 経済学科 (昼間主コース) | 中学校教諭一種免許状 | 社会 | | |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 地理歴史 | | |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 公民 | | |
| | | 高等学校教諭一種免許状 | 商業 | | |

| | | | |
|-------|-------------------|---|---------------------------|
| | 経済学科 (夜間主コース) | 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 | 社会 地理歴史 公民 商業 |
| | 経営学科 (昼間主コース) | 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 | 社会 地理歴史 公民 商業 |
| | 経営学科 (夜間主コース) | 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 | 社会 地理歴史 公民 商業 |
| | 経営法学科 (昼間主コース) | 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 | 社会 地理歴史 公民 |
| | 経営法学科 (夜間主コース) | 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 | 社会 地理歴史 公民 |
| | 理学部 | 数学科 | 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 |
| 物理学科 | | 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 | 理科 理科 |
| 化学科 | | 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 | 理科 理科 |
| 生物学科 | | 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 | 理科 理科 |
| 地球科学科 | | 中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 | 理科 理科 |
| 工学部 | 電子情報工学科 | 高等学校教諭一種免許状 | 工業 |
| | 機械システム工学科 | 高等学校教諭一種免許状 | 工業 |
| | 物質工学科 | 高等学校教諭一種免許状 | 工業 |
| | 化学生物工学科 | 高等学校教諭一種免許状 | 工業 |

▶富山大学学則の改正理由

- 平成3年度に経済学部及び理学部の学生定員増が図られることに伴い、所要事項を改める。
- 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)に基づき、教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定されたことに伴い、所要事項を改める。
- 平成2年11月1日付け文高学第232号・文部事務次官通達に基づき、研究生、聴講生及び特別聴講学生に係る授業料を改訂するため、所要事項を改める。

富山大学教育学部規則の一部改正

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成3年3月15日

富山大学長 大井信一

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則

富山大学教育学部規則（昭和27年4月18日制定）の一部を次のように改正する。

別表Ⅱ（ロ）、別表Ⅲ（ロ）社会専攻及び別表Ⅸを次のように改める。（別添1から別添3のとおり）

附 則

この規則は、平成3年3月15日から施行し、平成2年4月1日から適用する。ただし、平成元年度以前の入学生については、なお従前の例による。

別表Ⅱ（ロ）

別添1

教科教育法に関する授業科目

| 小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程(第一類) | | 中学校教員養成課程 養護学校教員養成課程(第二類) | |
|------------------------------|----------|------------------------------|----------|
| 授 業 科 目 | 開設 単位 | 授 業 科 目 | 開設 単位 |
| 国語科教育法(小) | 2 | 国語科教育法(中) | 2 |
| 社会科教育法(小) | 2 | 社会科教育法(中) | 2 |
| 算数科教育法(小) | 2 | 数学科教育法(中) | 2 |
| 理科教育法(小) | 2 | 理科教育法(中) | 2 |
| 生活科教育法(小) | 2 | 音楽科教育法(中) | 2 |
| 音楽科教育法(小) | 2 | 美術科教育法(中) | 2 |
| 図画工作科教育法(小) | 2 | 保健体育科教育法(中) | 2 |
| 家庭科教育法(小) | 2 | 技術科教育法(中) | 2 |
| 体育科教育法(小) | 2 | 家庭科教育法(中) | 2 |
| | | 英語科教育法(中) | 2 |
| | | 地理歴史科教育法 | 2 |
| | | 公民科教育法 | 2 |
| | | 書道科教育法 | 2 |
| | | 工業科教育法 | 2 |
| | | 商業科教育法 | 2 |
| 計 | 18 | 計 | 30 |

備考 指定以外のものは、選択単位として認定する。

| 学 科 目 | 専 門 教 育 科 目 区 分 等 | 授 業 科 目 | 開 設 単 位 | 中 学 校 教 員 養 成 課 程 | | | | | | | | | | | 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 第 二 類 | | | |
|---------------------------------|--|---------------------------|---------------------------------|-------------------|-----|---------|-----|-----|----------------|-----------------------|-----------------|-----|-----|-----|---------------------------|---|---|---|
| | | | | 小 学 校 教 員 養 成 課 程 | | 共 通 必 修 | 歴 史 | | 地 理 | | 法 律 ・ 社 会 ・ 経 済 | | | 必 須 | 選 定 | | | |
| | | | | 必 須 | 選 定 | | 必 須 | 選 定 | 必 須 | 選 定 | 必 須 | 選 定 | 選 定 | | | | | |
| 歴 史 及 び 外 国 史 | 日 本 史 及 び 外 国 史 | 日 本 史 学 概 論 | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | 日 本 史 学 各 論 I | 2 | 2 | | 2 | | 2 | | | | | | | | | 2 | 2 |
| | | 日 本 史 学 各 論 II | 2 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | 2 | 2 |
| | | 日 本 史 学 演 習 | 4 | 4 | 4 | | | | | | | | | | | | 4 | 4 |
| | | 東 洋 史 学 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 西 洋 史 学 概 論 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | | 西 洋 史 学 各 論 I | 2 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | 2 | 2 |
| | | 西 洋 史 学 各 論 II | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| | | 西 洋 史 学 演 習 | 4 | 4 | | | | | | | | | | | | | 4 | 4 |
| | | 史 学 概 論 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 地 理 学 | 地 理 学 | 地 理 学 総 論 I | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | 地 理 学 総 論 II | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| | | 地 誌 学 I | 4 | 4 | 2 | | | 2 | | 2 | | | | | | 2 | 2 | |
| | | 地 誌 学 II | 4 | 4 | 2 | | | 2 | 2 | 2 | | | | | | 4 | 2 | |
| | | 人 文 地 理 学 各 論 I | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | | 2 | 2 | |
| | | 人 文 地 理 学 各 論 II | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | | 2 | 2 | |
| | | 人 文 地 理 学 各 論 III | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | | 2 | 2 | |
| | | 人 文 地 理 学 各 論 IV | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | | 2 | 2 | |
| | | 自 然 地 理 学 各 論 I | 2 | 2 | | | 2 | | 2 | | | | | | | 2 | 2 | |
| | | 自 然 地 理 学 各 論 II | 2 | 2 | | | 2 | | 2 | | | | | | | 2 | 2 | |
| 法 律 学 | 法 律 学 及 政 治 学 | 地 理 学 演 習 I (巡 検 を 含 む。) | 5 | 5 | | | | 5 | | * 3 | 2 | | | | 5 | | | |
| | | 地 理 学 演 習 II (巡 検 を 含 む。) | 5 | 5 | | | | 5 | | * 3 | 2 | | | | 5 | | | |
| | | 地 図 学 | 2 | 2 | | | | 2 | | | 2 | | | | 2 | | | |
| | | 法 学 概 論 (国 際 法 を 含 む。) | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | 憲 法 | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | 2 | | | | | | | |
| | | 法 律 学 各 論 | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | 2 | | | |
| | | 法 律 学 演 習 | 4 | 4 | | | | 4 | | 4 | | | | * 2 | 2 | | | |
| | | 政 治 学 (国 際 政 治 を 含 む。) | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | 2 | | | | | 2 | 2 | |
| | | 社 会 学 | 社 会 学 及 経 済 学 | 社 会 学 概 論 I | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | | | 2 | |
| | | | | 社 会 学 概 論 II | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | 2 | | | | | 2 |
| 社 会 学 各 論 I | 2 | | | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | 2 | | | |
| 社 会 学 各 論 II | 2 | | | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | 2 | | | |
| 社 会 学 各 論 III | 2 | | | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | 2 | | | |
| 社 会 学 演 習 | 4 | | | 4 | | | | 4 | | 4 | | | | * 2 | 2 | | | |
| 経 済 原 論 I (国 際 経 済 を 含 む。) | 2 | | | 2 | 2 | | | | | | | | | | | 2 | | |
| 経 済 原 論 II | 2 | | | 2 | | | | 2 | | 2 | 2 | | | | | 2 | 2 | |
| 経 済 政 策 | 2 | | | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | | 2 | | |
| 経 済 史 | 2 | | | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | | 2 | | |
| 社 会 科 教 育 | 社 会 科 教 育 及 基 本 科 目 特 設 科 目 | 国 民 所 得 論 | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | 2 | | | |
| | | 経 済 学 演 習 | 4 | 4 | | | | 4 | | 4 | | | | * 2 | 2 | | | |
| | | 哲 学 | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | | | 2 | | | |
| | | 倫 理 学 | 2 | 2 | 2 | | | | | | | | | | 2 | | | |
| | | 宗 教 学 | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | 2 | | | |
| | | 心 理 学 概 論 | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | 2 | | | | | | | |
| | | 社 会 心 理 学 | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | 2 | | | | | | | |
| | | 認 知 心 理 学 | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | 2 | | | |
| | | 社 会 科 教 育 演 習 (地 理 歴 史) | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | 2 | | | |
| | | 社 会 科 教 育 演 習 (公 民) | 2 | 2 | | | | 2 | | 2 | | | | | 2 | | | |
| 社 会 科 特 別 講 義 (地 理 歴 史) | 4 | 4 | | | | 4 | | 4 | | | | | 4 | | | | | |
| 社 会 科 特 別 講 義 (公 民) | 4 | 4 | | | | 4 | | 4 | | | | | 4 | | | | | |
| 基 本 科 目 | 基 本 社 会 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | 128 | 12 | 22 | 12 | 2 | 4 | 12 | 3 (巡 検 1 を 含 む) | 3 | 12 | 2 | 4 | 18 | 6 | | |
| | | | | | | | | | (+ 共 通 必 修 22) | | (+ 共 通 必 修 22) | | | | | | | |
| 特 別 研 究 | | | | 12 | | | | | | 40 | | | | | 24 | | | |
| | | | | | | | | | 必 修 10 単 位 | | | | | | | | | |

備考 教科教育法は、別表Ⅱ(ロ)、基本科目は、別表Ⅲ(イ)に一覧で示す。 *いずれか1科目を履修する。

別表 IX

別添3

取得できる免許状の種類

| 課 程 | 免 許 状 の 種 類 | |
|---------------------|--|--|
| 小 学 校 教 員 養 成 課 程 | 小 学 校 教 諭 1 種 免 許 状 | |
| 中 学 校 教 員 養 成 課 程 | 中 学 校 教 諭 1 種 免 許 状 の 教 科 | 高 等 学 校 教 諭 1 種 免 許 状 の 教 科 |
| | 国 語 会 社 数 理 音 美 保 技 家 英 健 体 育 術 庭 語 | 国 地 理 歴 史 民 学 科 数 理 音 美 書 保 健 体 育 庭 語 英 |
| 養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 | 養 護 学 校 教 諭 1 種 免 許 状 | |
| 幼 稚 園 教 員 養 成 課 程 | 幼 稚 園 教 諭 1 種 免 許 状 | |

備考 教育職員免許法施行規則に定める所定の単位を修得したときは、所属課程以外の免許状をあわせて取得することができる。

▶富山大学教育学部規則の改正理由

教員免許状取得のために必要な授業科目及び単位数を整備し、所要事項を改める。

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成3年3月30日

富山大学長 大井信一

富山大学学則の一部を改正する学則

富山大学学則（昭和59年3月12日制定）の一部を次のように改正する。

第6条第2項中「人文科学研究科」を「人文科学研究科 経済学研究科」に改める。

第7条第1項中「経済学専攻科」を削る。

附 則

この学則は、平成3年4月1日から施行する。

▶富山大学学則の改正理由

平成3年度に大学院経済学研究科が設置されたため、所要事項を改める。

富山大学大学院学則の一部改正

富山大学大学院学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成3年3月30日

富山大学長 大井信一

富山大学大学院学則の一部を改正する学則

富山大学大学院学則（昭和53年4月1日制定）の一部を次のように改正する。

第3条中「人文科学研究科」を「^{人文科学研究科}経済学研究科」に改める。

第6条中「日本・東洋文化専攻，西洋文化専攻」を「日本・東洋文化専攻，西洋文化専攻
経済学研究科」に改める。

地域・経済政策専攻，企業経営専攻」

第11条の次に次の1条を加える。

（教育方法の特例）

第11条の2 教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

第22条中「人文科学研究科 文学修士」を「人文科学研究科 文学修士
経済学研究科 経済学修士」に改める。

別表第1中

| | | | |
|---------|-----------|----|-----|
| 人文科学研究科 | 日本・東洋文化専攻 | 5人 | 10人 |
| | 西洋文化専攻 | 5 | 10 |
| | 計 | 10 | 20 |

」を

| | | | |
|---------|-----------|----|-----|
| 人文科学研究科 | 日本・東洋文化専攻 | 5人 | 10人 |
| | 西洋文化専攻 | 5 | 10 |
| | 計 | 10 | 20 |
| 経済学研究科 | 地域・経済政策専攻 | 4 | 8 |
| | 企業経営専攻 | 4 | 8 |
| | 計 | 8 | 16 |

」に、

| | | |
|-----|-----|-----|
| 合 計 | 114 | 228 |
|-----|-----|-----|

」を

| | | |
|-----|-----|-----|
| 合 計 | 122 | 244 |
|-----|-----|-----|

」に

改める。

附 則

- 1 この学則は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 別表第1に定める総定員は、同表の規定にかかわらず、平成3年度は、次のとおりとする。

| 研究科名 | 専 攻 名 | 総定員 |
|------------------|-----------------|-----|
| 人 文 科 学 研 究 科 | 日本・東洋文化専攻 | 10人 |
| | 西洋文化専攻 | 10 |
| | 計 | 20 |
| 経 済 学 研 究 科 | 地域・経済政策専攻 | 4 |
| | 企業経営専攻 | 4 |
| | 計 | 8 |
| 理学研究科 | 数 学 専 攻 | 16 |
| | 物 理 学 専 攻 | 16 |
| | 化 学 専 攻 | 20 |
| | 生 物 学 専 攻 | 16 |
| | 地 球 科 学 専 攻 | 16 |
| | 計 | 84 |
| 工学研究科 | 電 気 工 学 専 攻 | 20 |
| | 工 業 化 学 専 攻 | 20 |
| | 金 属 工 学 専 攻 | 16 |
| | 機 械 工 学 専 攻 | 20 |
| | 生 産 機 械 工 学 専 攻 | 16 |
| | 化 学 工 学 専 攻 | 16 |
| | 電 子 工 学 専 攻 | 16 |
| 計 | 124 | |
| 合 計 | 計 | 236 |

▶富山大学大学院学則の改正理由

平成3年度に大学院経済学研究科が設置されたため、所要事項を改める。

富山大学学位規則の一部改正

富山大学学位規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成3年3月30日

富山大学長 大井信一

富山大学学位規則の一部を改正する規則

富山大学学位規則（昭和40年1月22日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第2項中「文学修士」を「文学修士
経済学修士」に改める。

第4条中「学位論文」を「学位論文（本学大学院学則第21条第3項の規定による特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。）」に改める。

第13条中「文学修士（富山大学）」を「文学修士（富山大学）
経済学修士（富山大学）」に改める。

別表中「文、理又は工」を「文、経、理又は工」に改める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

▶富山大学学位規則の改正理由

平成3年度に大学院経済学研究科が設置されたため、所要事項を改める。

富山大学専攻科規則の一部改正

富山大学専攻科規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成3年3月30日

富山大学長 大井信一

富山大学専攻科規則の一部を改正する規則

富山大学専攻科規則（昭和59年3月12日制定）の一部を次のように改正する。

第2条中「経済学専攻科 経理経営専攻 10名」を削る。

第6条中「各専攻科」を「専攻科」に改める。

第9条 削除

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

▶富山大学専攻科規則の改正理由

平成2年度に経済学専攻科が廃止されるため、所要事項を改める。

富山大学経済学部規則の一部改正

富山大学経済学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成3年3月30日

富山大学長 大井信一

富山大学経済学部規則の一部を改正する規則

富山大学経済学部規則（昭和50年6月27日制定）の一部を次のように改正する。

第20条を次のように改める。

第20条 削除

別表第3を削る。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

▶富山大学経済学部規則の改正理由

平成2年度に経済学専攻科が廃止されるため、所要事項を改める。

富山大学大学院経済学研究科規則の制定

富山大学大学院経済学研究科規則を次のとおり制定する。

平成3年3月30日

富山大学長 大井信一

富山大学大学院経済学研究科規則

（趣 旨）

第1条 この規則は、富山大学大学院学則（以下「学則」という。）第50条の規定に基づき、富山大学大学院経済学研究科（以下「研究科」という。）について必要な事項を定めるものとする。

（授業科目及び単位数）

第2条 研究科における授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。

2 授業科目の配当及び授業時間は、毎学年の始めにこれを定める。

（教育方法の特例）

第3条 経済学研究科委員会（以下「委員会」という。）が教育上必要と認めるときは、夜間その他特定の時間又は時期に、授業及び研究指導を行うことができる。

（履修方法）

第4条 学生は、学期ごとに、その学期に履修しようとする授業科目の届け出をしなければならない。

第5条 学生は、所属する専攻の授業科目について、

必修科目8単位を含めて30単位以上修得しなければならない。

2 学生は、指導教官の許可を得て所属する専攻以外の専攻の授業科目を履修することができるものとする。

3 前項の規定により履修した授業科目の修得単位は、委員会の議に基づき、第1項に規定する修了に必要な単位に含めることができる。

（単位の認定）

第6条 単位修得の認定は、筆記若しくは口頭の試験又は研究報告等により、授業科目担当教官が行う。

2 前項の認定を行う時期は、学期末とする。ただし、特別の理由があるときは、この限りでない。

（成績評価）

第7条 試験等に合格した授業科目の成績評価は、優、良及び可で表示する。

（学位論文の提出）

第8条 学生は、あらかじめ指定する期日までに学位論文（学則第21条第3項に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。）を提出しなければならない。

(学位論文の審査及び最終試験)

委員会の定めるところによる。

第9条 学位論文の審査及び最終試験は、委員会の委
嘱する3名の審査委員が行う。

附 則

(その他)

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

第10条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、

別表

各 専 攻 授 業 科 目 及 び 単 位 数

| 専 攻 | 授 業 科 目 | 単位数 | 備 考 |
|-------------|------------------|-----|----------------------|
| 地 理 論 経 済 学 | 現代経済のモデル分析特殊研究 | 2 | ○印の授業科目のうち1科目を必修とする。 |
| | ○現代経済のモデル分析演習 | 8 | |
| 比 較 経 済 論 | 経済変動と安定化特殊研究 | 2 | |
| | ○経済変動と安定化演習 | 8 | |
| 政 策 科 学 | 経済社会構造分析特殊研究 | 2 | |
| | ○経済社会構造分析演習 | 8 | |
| 経 済 学 | 経済計画理論特殊研究 | 2 | |
| | ○経済計画理論演習 | 8 | |
| 政 策 科 学 | 西欧経済史特殊研究 | 2 | |
| | ○西欧経済史演習 | 8 | |
| 地 域 経 済 学 | 日本経済史特殊研究 | 2 | |
| | ○日本経済史演習 | 8 | |
| 政 策 科 学 | 経済政策と地域産業構造論特殊研究 | 2 | |
| | ○経済政策と地域産業構造論演習 | 8 | |
| 地 域 経 済 学 | 資源計画特殊研究 | 2 | |
| | ○資源計画演習 | 8 | |
| 政 策 科 学 | 農業構造と地域開発特殊研究 | 2 | |
| | ○農業構造と地域開発演習 | 8 | |
| 地 域 経 済 学 | 東南アジアの経済開発特殊研究 | 2 | |
| | ○東南アジアの経済開発演習 | 8 | |
| 政 策 科 学 | 金融自由化と金融政策特殊研究 | 2 | |
| | ○金融自由化と金融政策演習 | 8 | |
| 地 域 経 済 学 | 財政の理論と政策特殊研究 | 2 | |
| | ○財政の理論と政策演習 | 8 | |
| 政 策 科 学 | 応用計量経済分析特殊研究 | 2 | |
| | ○応用計量経済分析演習 | 8 | |
| 地 域 経 済 学 | 労働のマクロ経済分析特殊研究 | 2 | |
| | ○労働のマクロ経済分析演習 | 8 | |
| 政 策 科 学 | 労働政策特殊研究 | 2 | |
| | ○労働政策演習 | 8 | |
| 地 域 経 済 学 | 労働者生活と政策特殊研究 | 2 | |
| | ○労働者生活と政策演習 | 8 | |
| 政 策 科 学 | 比較社会学特殊研究 | 2 | |
| | ○比較社会学演習 | 8 | |
| 地 域 経 済 学 | 外国経済書研究 | 2 | |

| 専 攻 | | 授 業 科 目 | 単位数 | 備 考 |
|-----------------------|---------------|-------------------|-----|----------------------|
| 企 業 管 理 学 | 経 営 学 | 人事戦略特殊研究 | 2 | ○印の授業科目のうち1科目を必修とする。 |
| | | ○人事戦略演習 | 8 | |
| | | 経営管理史特殊研究 | 2 | |
| | | ○経営管理史演習 | 8 | |
| | 応 用 経 営 | サービス経営教育論特殊研究 | 2 | |
| | | ○サービス経営教育論演習 | 8 | |
| | | リスク・マネジメント特殊研究 | 2 | |
| | | ○リスク・マネジメント演習 | 8 | |
| | 管 理 科 学 | 財務管理論特殊研究 | 2 | |
| | | ○財務管理論演習 | 8 | |
| | | 国際経営論特殊研究 | 2 | |
| | | ○国際経営論演習 | 8 | |
| | 基 礎 法 | マーケティング特殊研究 | 2 | |
| | | ○マーケティング演習 | 8 | |
| | | 労務管理論特殊研究 | 2 | |
| | | ○労務管理論演習 | 8 | |
| | 民 事 法 | 生産管理論特殊研究 | 2 | |
| | | ○生産管理論演習 | 8 | |
| | | オペレーションズ・リサーチ特殊研究 | 2 | |
| | | ○オペレーションズ・リサーチ演習 | 8 | |
| 企 業 関 係 法 | 情報管理論特殊研究 | 2 | | |
| | ○情報管理論演習 | 8 | | |
| | 経営情報処理特殊研究 | 2 | | |
| | ○経営情報処理演習 | 8 | | |
| 管 理 学 | 財務会計論特殊研究 | 2 | | |
| | ○財務会計論演習 | 8 | | |
| | 管理会計論特殊研究 | 2 | | |
| | ○管理会計論演習 | 8 | | |
| 専 攻 | 会計監査論特殊研究 | 2 | | |
| | 現代不動産関係法特殊研究 | 2 | | |
| | ○現代不動産関係法演習 | 8 | | |
| | 金融取引法特殊研究 | 2 | | |
| 攻 | ○金融取引法演習 | 8 | | |
| | 企業組織法特殊研究 | 2 | | |
| | ○企業組織法演習 | 8 | | |
| | 商取引法特殊研究 | 2 | | |
| | ○商取引法演習 | 8 | | |
| | 経済法特殊研究 | 2 | | |
| | ○経済法演習 | 8 | | |
| | 税法特殊研究 | 2 | | |
| | ○税法演習 | 8 | | |
| | 労使関係の変化と法特殊研究 | 2 | | |

| | | | |
|--|----------------|---|--|
| | ○労使関係の変化と法演習 | 8 | |
| | 雇用形態の多様化と法特殊研究 | 2 | |
| | ○雇用形態の多様化と法演習 | 8 | |
| | 外国経営書研究 | 2 | |

▶富山大学大学院経済学研究科規則の制定理由

平成3年度に大学院経済学研究科が設置されたため、必要事項を定める。

富山大学大学院経済学研究科委員会規則の制定

富山大学大学院経済学研究科委員会規則を次のとおり制定する。

平成3年3月30日

富山大学長 大井信一

富山大学大学院経済学研究科委員会規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、富山大学大学院学則第49条第2項の規定に基づき、富山大学大学院経済学研究科委員会（以下「委員会」という。）の組織、審議事項及び運営等について定めるものとする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 研究科長
- (2) 研究科担当の専任教員

(審議事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 研究科の担当教員に関する事項
- (2) 教育課程に関する事項
- (3) 試験に関する事項
- (4) 課程修了の認定に関する事項
- (5) 入学、退学、休学、転学及び懲戒その他学生の身分に関する事項
- (6) その他研究科の教育、研究及び運営に関する事項

(議 事)

第4条 研究科長は、必要と認めるとき又は委員の3分の1以上から付議すべき事項を示して請求があったときは、委員会を招集し、その議長となる。

2 研究科長に事故あるときは、研究科長があらかじめ指名した委員がその職務を行う。

第5条 委員会は、委員（長期出張中又は休職中の委員を除く。）の3分の2以上が出席しなければ開会

することができない。

2 議事は、前項の出席者の過半数の同意をもって決する。ただし、富山大学学位規則第10条に規定する事項に関しては、3分の2以上、同第14条に規定する事項に関しては、4分の3以上の同意をもって決する。

(意見の聴取)

第6条 研究科長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(小委員会)

第7条 委員会に小委員会を置くことができる。

2 小委員会は、委員会から付託された研究科の運営その他必要な事項に係る原案の作成に当たるものとする。

(細 則)

第8条 委員会は、必要があるときは、細則を定めることができる。

(庶 務)

第9条 委員会の庶務は、研究科長の指示により経済学部事務長が処理する。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

▶富山大学大学院経済学研究科委員会規則の制定理由

平成3年度に大学院経済学研究科が設置されたため、同研究科委員会に関し、必要事項を定める。

富山大学学生部入試課の設置に伴う 関係規則の整理に関する規則の制定

富山大学学生部入試課の設置に伴う関係規則の整理に関する規則を次のとおり制定する。

平成3年4月12日

富山大学長 大井信一

富山大学学生部入試課の設置に伴う 関係規則の整理に関する規則

(富山大学入学試験管理委員会規則の一部改正)

第1条 富山大学入学試験管理委員会規則(昭和36年9月8日制定)の一部を次のように改正する。

第10条中「入学主幹」を「入試課長」に改める。

(富山大学入学者選抜方法研究委員会規則の一部改正)

第2条 富山大学入学者選抜方法研究委員会規則(昭和39年12月18日制定)の一部を次のように改正する。

第7条中「入学主幹」を「入試課」に改める。

(富山大学大学入試センター試験実施委員会

規則の一部改正)

第3条 富山大学大学入試センター試験実施委員会規則(平成元年5月26日制定)の一部を次のように改正する。

第6条中「入学主幹」を「入試課」に改める。

(富山大学事務電算化委員会規則の一部改正)

第4条 富山大学事務電算化委員会規則(昭和54年12月21日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第1項第4号中「主幹及び事務長」を「及び事務長」に改める。

(富山大学事務組織規則の一部改正)

第5条 富山大学事務組織規則(昭和39年1月1日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第3項中「入学主幹」を「入試課」に改める。

第4条第1項中「主幹及び事務部」を「及び事務部」に改める。

第10条第7号中「入学主幹」を「入試課」に改める。

第11条の2本文中「入学主幹」を「入試課」に改める。

第16条第1項中「主幹及び各事務部」を「及び各事務部」に改める。

(富山大学における旅行命令権の復委任に関する

規則の一部改正)

第6条 富山大学における旅行命令権の復委任に関する規則(昭和55年3月31日制定)の一部を次のように改正する。

第2条の表学生部長の部中「課長及び主幹」を「及び課長」に改める。

(富山大学文書処理規則の一部改正)

第7条 富山大学文書処理規則(昭和63年3月31日制定)の一部を次のように改正する。

第17条第2項中「主幹又は事務長」を「又は事務長」に改める。

第25条中「主幹名又は事務長名」を「又は事務長名」に改める。

第33条第2項中「主幹及び事務長」を「及び事務長」に改める。

別表1中

「富大入 第 号 入学主幹所管のもの」を

「富大入 第 号 入試課所管のもの」に改める。

様式第6号の2(第28条関係)中「課長・主幹」を「課長」に改める。

(富山大学文書決裁規則の一部改正)

第8条 富山大学文書決裁規則(昭和48年12月21日制定)の一部を次のように改正する。

別表第1中

| | |
|---------------------|----------|
| 課又は主幹の所掌事務に属する軽易なもの | 主管課長又は主幹 |
|---------------------|----------|

| | |
|-----------------|------|
| 課の所掌事務に属する軽易なもの | 主管課長 |
|-----------------|------|

別表第2中

| | | |
|-----------------------|----|----------|
| 7 超過勤務, 休日勤務, 夜間勤務の命令 | 学長 | 主管課長又は主幹 |
|-----------------------|----|----------|

| | | |
|---------------------|-----|------|
| 7 超過勤務，休日勤務，夜間勤務の命令 | 学 長 | 主管課長 |
|---------------------|-----|------|

」に
改め，「（入学主幹関係）」を「（入試課関係）」
に改める。

（富山大学公印管理規則の一部改正）

第9条 富山大学公印管理規則（昭和48年4月13日制定）の一部を次のように改正する。

別表第2 学生部の項中

| | | | | |
|---------------|----|------|---|--|
| 富山大学学生部入学主幹の印 | 20 | 入学主幹 | ” | |
|---------------|----|------|---|--|

」を

| | | | | |
|---------------|----|------|---|--|
| 富山大学学生部入試課長の印 | 20 | 入試課長 | ” | |
|---------------|----|------|---|--|

」に

改める。

（富山大学防火管理規則の一部改正）

第10条 富山大学防火管理規則（昭和39年9月18日制定）の一部を次のように改正する。

別表第3 第3項第3号中「，主幹，事務長」を「，事務長」に改める。

附 則

この規則は，平成3年4月12日から施行する。

▶富山大学学生部入試課の設置に伴う関係規則の整理に関する規則の制定理由

国立大学及び国立短期大学の事務局等の部及び課に関する訓令（昭和42年文部省訓令第20号）の一部改正により，入学主幹が廃止され，入試課が設置されたことに伴い，所要事項を改める。

富山大学学則の一部改正

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成3年4月19日

富山大学長 大井信一

富山大学学則の一部を改正する学則

富山大学学則（昭和59年3月12日制定）の一部を次のように改正する。

第63条に次の一号を加える。

- (3) 前期分授業料徴収の際，後期分授業料を併せて納付した者が，後期分授業料の徴収時期前に休学又は退学した場合 後期分の授業料相当額

別表第1 教育学部の項中「発達心理学」を「発達心理学
臨床心理学」に改める。

同表経済学部を次のように改める。

経済学部

経済学科

△理論経済学

△比較経済論

△政策科学

△応用経済学

経営学科

△経営学

△応用経営

△管理科学

経営法学科

△基礎法

△民事法

△企業関係法

附 則

この学則は，平成3年4月19日から施行し，平成3年4月1日から適用する。ただし，別表第1の改正については，平成3年4月12日から適用する。

▶富山大学学則の改正理由

- 1 平成3年度からの授業料の徴収方法の改善に伴い，「国立学校の授業料等免除及び徴収猶予取扱要領」が一部改正（平成3年3月15日文高学第99号通知）されたため，所要事項を改める。
- 2 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（平成3年4月12日文部省令第21号）の施行に伴い，所要事項を改める。

富山大学大学院学則の一部改正

富山大学大学院学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成 3 年 4 月 19 日

富山大学長 大井信一

富山大学大学院学則の一部を改正する学則

附 則

富山大学大学院学則（昭和53年 4 月 1 日制定）の一部を次のように改正する。

この学則は、平成 3 年 4 月 19 日から施行し、平成 3 年 4 月 1 日から適用する。

別表第 2 を次のように改める。（別添のとおり）

別表第 2

別添

| 研究科名 | 専攻等名 | 免許状の種類 | 免許教科 |
|---------|---------------------------|---------------------------|--------------|
| 人文科学研究科 | 日本・東洋文化専攻 日本・東洋歴史文化コース | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | 社会 社会 |
| | 日本・東洋文化専攻 国語・国文学コース | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | 国語 国語 |
| | 日本・東洋文化専攻 中国語・中国文学コース | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | 中国語 中国語 |
| | 西洋文化専攻 西洋思想・歴史文化コース | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | 社会 社会 |
| | 西洋文化専攻 英語・英米文学コース | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | 英語 英語 |
| | 西洋文化専攻 ドイツ語・ドイツ文学コース | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | ドイツ語 ドイツ語 |
| 経済学研究科 | 地域・経済政策専攻 | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | 社会 社会 |
| | 企業経営専攻 | 高等学校教諭専修免許状 | 商業 |
| 理学研究科 | 数 学 専 攻 | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | 数学 数学 |
| | 物 理 学 専 攻 | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | 理科 理科 |
| | 化 学 専 攻 | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | 理科 理科 |
| | 生 物 学 専 攻 | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | 理科 理科 |
| | 地 球 科 学 専 攻 | 中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 | 理科 理科 |
| 工学研究科 | 電 気 工 学 専 攻 | 高等学校教諭専修免許状 | 工業 |
| | 工 業 化 学 専 攻 | 高等学校教諭専修免許状 | 工業 |
| | 金 属 工 学 専 攻 | 高等学校教諭専修免許状 | 工業 |
| | 機 械 工 学 専 攻 | 高等学校教諭専修免許状 | 工業 |
| | 生 産 機 械 工 学 専 攻 | 高等学校教諭専修免許状 | 工業 |
| | 化 学 工 学 専 攻 | 高等学校教諭専修免許状 | 工業 |
| | 電 子 工 学 専 攻 | 高等学校教諭専修免許状 | 工業 |

富山大学大学院学則の改正理由
教育職員免許法（昭和24年法律第147号）に基づき、

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学専攻科規則の一部改正

富山大学専攻科規則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成3年4月19日

富山大学長 大井信一

富山大学専攻科規則の一部を改正する規則

富山大学専攻科規則（昭和59年3月12日制定）の一部を次のように改正する。

第8条中「30単位以上」を「34単位以上」に改める。

第9条を次のように改める。

（教員免許状）

第9条 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得したときに取得できる教員免許状の種類及び免許教科は、次表のとおりとする。

| 専攻科 | 専攻 | 免許状の種類 | 免許教科 |
|-------|------|-------------|--|
| 教育専攻科 | 教育専攻 | 小学校教諭専修免許状 | 国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術 家庭 英語 |
| | | 中学校教諭専修免許状 | |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |

附 則

この規則は、平成3年4月19日から施行し、平成3年4月1日から適用する。

▶富山大学専攻科規則の改正理由

1 教育専攻科の教育内容の充実を図るため、修了要

件単位を引き上げる。

2 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）に基づき、教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学教育学部規則の一部改正

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成3年4月19日

富山大学長 大井信一

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則

富山大学教育学部規則（昭和27年4月18日制定）の一部を次のように改正する。

第15条中「合計30単位以上」を「合計34単位以上」に改める。

別表Ⅵの学科目の欄中「物質科学」を「物質科学 臨床心理学」に改める。

別表Ⅶ中

| | | | |
|---------|----|----|----|
| 教 育 学 | | 6 | 10 |
| 教育心理学 | | 4 | |
| 教 科 教 育 | | | |
| 計 | 10 | 10 | 10 |

| | | | |
|---------|----|----|----|
| 教 育 学 | | 6 | 14 |
| 教育心理学 | | 4 | |
| 教 科 教 育 | | | |
| 計 | 10 | 10 | 14 |

別表Ⅶを次のように改める。（別添のとおり）

附 則

この規則は、平成3年4月19日から施行し、平成3年4月1日から適用する。ただし、別表Ⅵの学科目の欄「臨床心理学」の改正については、平成3年4月12日から適用する。

別表 VIII

別添

教育専攻科開設授業科目及び単位

| 科目 | 授 業 科 目 | 開設単位 | 必 | 選 必 | 選 | |
|---------------------|-----------------------|------------------|----|----------------------------|------------------|---|
| | 個 人 研 究 | 10 | 10 | | | |
| 教 育 学 | 教 育 哲 学 特 論 | 2 | | 2 2 2 2 2 2 | | |
| | 教 育 史 特 論 | 2 | | | | |
| | 教 育 課 程 特 論 | 2 | | | | |
| | 教 育 方 法 学 特 論 | 2 | | | | |
| | 教 育 社 会 学 特 論 | 2 | | | | |
| | 教 育 制 度 特 論 | 2 | | | | |
| | 教 育 学 特 別 講 義 | 4 | | | 4 | |
| | 教 育 学 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 幼 児 教 育 学 特 論 | 2 | | | 2 | |
| | 幼 児 教 育 学 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 精 神 遅 滞 児 教 育 学 特 論 | 2 | | | 2 | |
| | 精 神 遅 滞 児 教 育 学 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 教 育 心 理 学 | 発 達 心 理 学 特 論 I | 2 | | 2 2 2 2 | |
| | | 発 達 心 理 学 特 論 II | 2 | | | |
| 教 育 心 理 学 特 論 I | | 2 | | | | |
| 教 育 心 理 学 特 論 II | | 2 | | | | |
| 発 達 心 理 学 特 別 講 義 | | 2 | | | 2 | |
| 教 育 心 理 学 特 別 講 義 | | 2 | | | 2 | |
| 発 達 心 理 学 演 習 | | 1 | | | 1 | |
| 教 育 心 理 学 演 習 | | 1 | | | 1 | |
| 心 理 学 研 究 法 | | 2 | | | 2 | |
| 幼 児 心 理 学 特 論 | | 2 | | | 2 | |
| 幼 児 心 理 学 演 習 | | 2 | | | 2 | |
| 精 神 遅 滞 児 心 理 学 特 論 | | 2 | | | 2 | |
| 精 神 遅 滞 児 心 理 学 演 習 | | 2 | | | 2 | |
| 教 科 教 育 | | 国 語 科 教 育 特 論 | 4 | | | 4 |
| | 国 語 科 教 育 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 社 会 科 教 育 特 論 | 4 | | | 4 | |
| | 社 会 科 教 育 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 数 学 科 教 育 特 論 | 4 | | | 4 | |
| | 数 学 科 教 育 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 理 科 教 育 特 論 | 4 | | | 4 | |
| | 理 科 教 育 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 生 活 科 教 育 特 論 | 4 | | | 4 | |
| | 生 活 科 教 育 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 音 楽 科 教 育 特 論 | 4 | | | 4 | |
| | 音 楽 科 教 育 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 美 術 科 教 育 特 論 | 4 | | | 4 | |
| | 美 術 科 教 育 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 保 健 体 育 科 教 育 特 論 | 4 | | | 4 | |
| | 保 健 体 育 科 教 育 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 家 庭 科 教 育 特 論 | 4 | | | 4 | |
| | 家 庭 科 教 育 演 習 | 2 | | | 2 | |
| | 技 術 科 教 育 特 論 | 4 | | | 4 | |
| | 技 術 科 教 育 演 習 | 2 | | | 2 | |
| 英 語 科 教 育 特 論 | 4 | | | 4 | | |
| 英 語 科 教 育 演 習 | 2 | | | 2 | | |
| 計 | | 126 | 10 | 10 | 14 | |
| | | | | 34 | | |

富山大学教育学部規則の改正理由

1 教育専攻科の教育内容の充実を図るため、授業科目及び単位数を整備し、所要事項を改める。

2 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部改正（平成3年文部省令第21号）に伴い、所要事項を改める。

富山大学廃液処理施設放射線障害予防規則の制定

富山大学廃液処理施設放射線障害予防規則を次のとおり制定する。

平成3年4月19日

富山大学廃液処理施設放射線障害予防規則

(目的)

第1条 この規則は、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（昭和32年法律第167号。以下「防止法」という。）第21条第1項及び人事院規則10・5（職員の放射線障害の防止）第27条第1項の規定に基づき、富山大学廃液処理施設（以下「廃液処理施設」という。）における⁶³Niを装備したガスクロマトグラフ用電子線・キャプチャ・ディテクタ（以下「ECD」という。）の使用管理に関する事項を定め、放射線障害の発生防止と安全を確保することを目的とする。

(機器)

第2条 この規則でいうECDはガスクロマトグラフに装備されたもので、その管理区域の境界は、機器の表面とする。

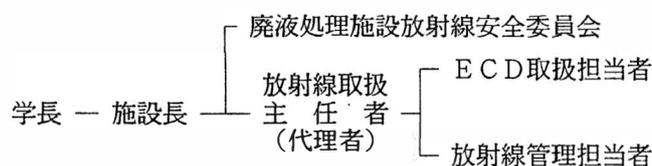
(取扱者の義務)

第3条 放射性同位元素の取扱業務に従事する者は、この規則の定めるところに従い、放射線障害の発生防止に務めなければならない。

(総括及び組織)

第4条 富山大学廃液処理施設長（以下「施設長」という。）は、廃液処理施設の放射線障害予防業務並びにECDの維持及び管理の業務を総括する。

2 廃液処理施設における放射線障害防止に関する組織は次のとおりとする。



(放射線取扱主任者等の選任)

第5条 廃液処理施設に、放射線障害の発生防止について、総括的な監督を行わせるため、放射線取扱主任者（以下「主任者」という。）を置く。

2 廃液処理施設に、主任者が旅行、疾病等の理由により職務を行うことができない期間中、その職務を代行させるため、主任者の代理者（以下「代理者」という。）を置く。

3 主任者及び代理者は、法に規定する放射線取扱主任者免状の所有者の中から、施設長の推薦により、学長が命ずる。

(放射線取扱主任者の職務)

第6条 主任者は、廃液処理施設における放射線障害の発生防止に係る監督に関し、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 予防規則の制定及び改廃への参画
- (2) 放射線障害防止上重要な計画作成への参画
- (3) 法令に基づく申請、届出、報告の審査
- (4) 立入り検査時の立会い
- (5) 異常及び事故の原因調査への参画
- (6) 施設長に対する意見の具申
- (7) 使用状況及び施設、帳簿、書類等の監査
- (8) 関係者への助言、勧告及び指示
- (9) 放射線安全委員会の開催の要求
- (10) その他障害防止に関する必要事項

(放射線取扱主任者の代理者の職務)

第7条 代理者は、主任者が旅行、疾病等の理由により職務を行うことができないときは、主任者の職務を代行しなければならない。

(放射線安全委員会)

第8条 放射線障害の防止について必要な事項を企画

審議するために、廃液処理施設に廃液処理施設放射線安全委員会（以下「安全委員会」という。）を置く。

- 2 安全委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 施設長
 - (2) 主任者及び代理者
 - (3) 廃液処理施設運営委員会委員長
 - (4) 放射線管理担当者
 - (5) ECD取扱担当者
 - (6) その他施設長が必要と認めた者
- 3 安全委員会に委員長を置き、委員の互選による。
- 4 委員長は安全委員会を召集し、その議長となる。
- 5 委員長は、必要があると認めたときは、安全委員会に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（放射線管理担当者）

第9条 放射線障害の発生を防止するため、廃液処理施設に放射線管理担当者を置く。

- 2 放射線管理担当者は、次の各号に掲げる業務を行う。
 - (1) 放射線施設の管理に係る放射線測定
 - (2) 放射線測定機器の保守及び管理
 - (3) ECD取扱担当者等に対する教育、訓練計画の立案及びその実施
 - (4) 前記第1号から第3号に関する記録の作成及び保守
 - (5) 関係法令に基づく届出等の事務手続き、その他関係官庁との連絡等事務的事項に関する業務

（使用施設の責任者）

第10条 ECDを使用する廃液処理施設の責任者は、施設長とする。

- 2 施設長は、ECDの安全な取扱いを図るため、使用前にECD取扱担当者を指名する。
- 3 施設長は、廃液処理施設において放射線障害防止のための必要な措置を行うとともに、ECD取扱担当者に対し、主任者及び施設長が放射線障害防止のためにする指示を遵守するよう徹底させなければならない。

（ECD取扱担当者）

第11条 ECD取扱担当者でなければECDを使用してはならない。

- 2 ECD取扱担当者は、ECDの使用、保管、運搬

及び廃棄に関する記帳を行い、施設長に報告する。

（検査）

- 第12条 ECD取扱担当者は、主任者の指示に従い、年1回以上定期的にECDの検査を行わなければならない。
- 2 主任者は、前項の検査の結果異常を認めたときは、その旨を施設長に報告するとともに、修理等、必要な措置を講じなければならない。
 - 3 主任者は、第1項の検査を終えたときは、その結果を取りまとめて、施設長に報告しなければならない。

（修理等の報告）

第13条 主任者は、設備・機器等について修理等の措置を終えたときは、その結果について施設長に報告しなければならない。

（使用）

第14条 ECD取扱担当者は、主任者又は施設長の監督のもとでECDを使用しなければならない。

- 2 ECD取扱担当者は、ECDの使用前に予め備え付けられた使用に係る帳簿に所要の事項を記入しなければならない。
- 3 ECD取扱担当者は、使用中に機器に故障その他の異常が発生し、又は発生のおそれがある場合は、直ちに機器の使用を中止し、その旨を主任者及び施設長に連絡しなければならない。
- 4 施設長は、装備したECDを線源洗浄等の目的で業者に引き渡すため機器から取り外す必要が生じたときは、主任者の同意を得なければならない。

（注意事項の掲示）

第15条 施設長は、ECDの取扱いに関する注意事項を機器設置場所近くの目につきやすい場所に掲示しなければならない。

（保管）

第16条 施設長は廃液処理施設測定室に設置されたガスクロマトグラフ内に、ECDを保管しなければならない。

- 2 施設長は、廃液処理施設測定室を使用していない間はその出入口扉に施錠しなければならない。

（運搬）

第17条 ECD取扱担当者は、ECDを修理、洗浄等のため運搬する必要が生じたときは、主任者立会いのもとに、次の基準に従って行わなければならない。

- (1) ECDを容器に封入し、輸送基準に適合した包装とすること。
- (2) ECDを廃液処理施設外において運搬する場合は、前記のほか、総理府令、運輸省令及び郵政省令で定める技術上の基準に従って必要な措置を講ずること。

(廃棄)

第18条 ECDを廃棄する必要が生じた場合、施設長は主任者の同意を得たうえで廃棄業者等に引き渡さなければならない。

(測定)

第19条 放射線管理担当者は、次の基準に従い、放射線測定器を用いて放射線の量及び放射性同位元素による汚染の状況を測定し、記録しなければならない。

- (1) 測定場所は、ECDを装備したガスクロマトグラフの表面とする。
- (2) 測定時期は、ECDの使用開始前1回以上、使用開始後にあつては6か月を超えない期間に1回以上とする。
- (3) 前号の規定にかかわらずECDを交換した場合は、その都度測定する。
- (4) 測定結果を記録し、主任者に報告する。

(教育及び訓練)

第20条 施設長は、ECD取扱者等に対し、本予防規則の周知等を図るほか、放射線障害を防止するために必要な教育及び訓練を行わなければならない。

2 前項の規定による教育及び訓練は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 実施時期は、ECDを初めて使用前及び使用開始後にあつては1年を超えない期間ごととする。
- (2) 実施項目は次のとおりとする。
 - イ 放射線の人体に与える影響
 - ロ ECDの安全取扱
 - ハ 放射線障害防止に関する法令
 - ニ 予防規定
 - ホ その他放射線障害防止に関して必要な事項

3 前項の規定にかかわらず、前項第2号に掲げる実施項目に関し十分な知識及び技能を有していると認められる者に対しては、教育及び訓練の一部を省略することができる。

(危険時の措置)

第21条 主任者は、ECDに関し、地震、火災、運搬中の事故等の災害が起こったことにより放射線障害のおそれがある場合又は放射線障害が発生した場合には、直ちに延焼防止、通報、避難警告等応急の措置を講じ、直ちに施設長にその旨を報告しなければならない。

2 施設長は、前項の事態が生じた場合は、学長に報告し、必要に応じて警察署又は消防署に通報しなければならない。

3 学長は、前項の報告を受けたときには、遅滞なく科学技術庁長官及び関係各機関に届け出なければならない。

(報告)

第22条 学長は、前条に規定するほか、ECDの盗取等放射線障害が発生し又は発生するおそれがある場合は、その旨を直ちに、その状況及びそれに対する処置を10日以内に科学技術庁長官及び関係各機関に報告しなければならない。

(記録)

第23条 放射線管理担当者及びECD取扱担当者は、第19条に定める放射線の量等の測定結果、ECDの使用、保管、運搬、廃棄並びに第20条の教育及び訓練に関する記録をしなければならない。

2 放射線管理担当者及びECD取扱担当者は、1年ごとに前項の記録帳簿を閉鎖しなければならない。

3 前項の規定により閉鎖した記録帳簿は、主任者の監査を受けなければならない。

(保存)

第24条 前条の記録帳簿の保存期間は5年間とし、廃液処理施設で保存する。

附 則

この規則は、平成3年4月19日から施行する。

▶富山大学廃液処理施設放射線障害予防規則の制定理由

廃液処理施設にニッケル63を装備するガスクロマトグラフ用エレクトロン・キャプチャ・ディテクタを購入することに伴い、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（昭和32年法律第167号）及び人事院規則10-5（職員の放射線障害の防止）に基づき廃液処理施設における放射線障害を防止するため、所要事項を定める。

富山大学放射性同位元素委員会規則の一部改正

富山大学放射性同位元素委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成3年4月19日

富山大学長 大井信一

富山大学放射性同位元素委員会 規則の一部を改正する規則

富山大学放射性同位元素委員会規則（昭和40年1月1日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項第2号中「放射線取扱主任者及びその代理者」を「放射線取扱主任者」に改め、同条同項中第5号を第6号とし、第4号の次に次の一号を加える。

(5) 廃液処理施設長

附 則

この規則は、平成3年4月19日から施行する。

▶富山大学放射性同位元素委員会規則の改正理由

廃液処理施設に放射性物質（ニッケル63）を装備する機器を購入することに伴い、放射性同位元素委員会に新たに廃液処理施設長を加え、さらに同委員会の組織の整備を図るため、所要事項を改める。

富山大学水素同位体機能研究センター規則の一部改正

富山大学水素同位体機能研究センター規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成3年4月19日

富山大学長 大井信一

富山大学水素同位体機能研究センター 規則の一部を改正する規則

富山大学水素同位体機能研究センター規則（平成2年6月8日制定）の一部を次のように改正する。

第6条第1項中第3号を削り、第4号を第3号とし、第5号から第7号までを一号ずつ繰り上げる。

同条第2項中「前項第4号から第7号まで」を「前項第3号から第6号まで」に改める。

第7条中「前条第1項第4号から第7号まで」を

「前条第1項第3号から第6号まで」に改める。

附 則

この規則は、平成3年4月19日から施行する。

▶富山大学水素同位体機能研究センター規則の改正理由

水素同位体機能研究センター運営委員会の組織の整備を図るため、所要事項を改める。

学位取得者

取得者 理学部 助教授 久保文夫
学位の種類 理学博士（北海道大学）
取得年月日 平成3年3月25日
学位論文名 Theory of Operator Means（作用素平均の理論）

取得者 教養部 教授 中越矩方
学位の種類 理学博士（名古屋大学）
取得年月日 平成3年3月9日
学位論文名 素円分体とその二次拡大体の不分岐拡大

取得者 人文学部 助教授 磯部 彰
学位の種類 文学博士（東北大学）
取得年月日 平成3年3月7日
学位論文名 西遊記形成史の研究

取得者 工学部 助手 平澤良男
学位の種類 工学博士（東京工業大学）
取得年月日 平成3年3月31日
学位論文名 混合材料の固液相変化に関する研究



海外渡航者

| 渡航の種類 | 所属 | 職 | 氏名 | 渡航先国 | 目的 | 期間 |
|--------|------|----------|----------------|---------------------------------|--|------------------------|
| 外国出張 | 教育学部 | 助教授 | 高橋 春成 | オーストラリア | 生物資源の利用と管理に関する日本とオーストラリアの比較研究及び資料収集 | 3. 3. 2 } 3. 4. 25 |
| | 経済学部 | 教授 | 榊原 英夫 | アメリカ合衆国, 連合王国, フランス | 「欧米におけるインフレーション会計」についての研究 | 3. 3. 16 } 4. 1. 15 |
| | 工学部 | 教授 助手 | 竹越 栄俊 平澤 良男 | アメリカ合衆国 | 第3回ASMEJSME熱工学合同会議に出席及び混合材料の物性に関する研究資料の収集 | 3. 3. 16 } 3. 3. 24 |
| | 経済学部 | 教授 | 藤森 英男 | フィリピン | 「アジア太平洋諸国のサービス貿易及び海外直接投資の統計データレビュー調査」に関する現地調査 | 3. 3. 18 } 3. 3. 22 |
| | 教養部 | 助教授 | 溝口 常俊 | インド, ネパール王国, バングラデシュ人民共和国, タイ王国 | 南アジア, カースト社会における地域間交流に関する調査 | 3. 3. 27 } 3. 4. 14 |
| | 理学部 | 助手 | 笠原 一世 | カナダ | イオン会合に基づく分離・前濃縮法による環境水中の微量成分の分析に関する研究 | 3. 3. 29 } 4. 1. 28 |
| | 〃 | 教授 | 松浦 郁也 | オランダ, ベルギー | 不均一触媒による選択酸化反応に関する第3回ヨーロッパ国際会議に出席, 酸化物触媒による研究打合せ | 3. 4. 1 } 3. 5. 11 |
| | 経済学部 | 教授 | 和合 肇 | スペイン | 第4回バレンシアベイズ統計学国際研究集会に出席及びベイズ統計学に関する論のため | 3. 4. 13 } 3. 4. 22 |
| 海外研修旅行 | 教育学部 | 教授 | 相馬 恒雄 | インド | インド東ガーツの先カンブリア地域共同研究のため | 3. 3. 2 } 3. 3. 16 |
| | 経済学部 | 助教授 | 柳川 洋一 | アメリカ合衆国 | 「アメリカにおけるメディカルの専門職化への病院組織の対応に関する研究」についての資料収集 | 3. 3. 7 } 3. 3. 14 |
| | 理学部 | 助教授 | 庄子 仁 | アメリカ合衆国 | 氷コア解析の共同研究 | 3. 3. 21 } 3. 3. 30 |
| | 〃 | 助手 | 阿部 幸隆 | ドイツ連邦共和国 | 多変数の周期関数の研究 | 3. 3. 31 } 4. 6. 1 |
| | 人文学部 | 助教授 | 大工原ちなみ | 連合王国 | ユダヤ文学及び思想についての資料収集 | 3. 4. 5 } 3. 4. 19 |
| | 経済学部 | 教授 | 武井 勲 | アメリカ合衆国 | リスク・マネジメントの調査と第29回リスク・マネジメント及び保険管理協会年次総会に出席のため | 3. 4. 20 } 3. 5. 4 |
| | 〃 | 助教授 | 飯田 剛史 | 大韓民国 | 韓国における儒教的親族組織の研究 | 3. 4. 25 } 3. 5. 5 |

職 員 消 息

◀新任者住所▶

庶務部庶務課

文部事務官 鍋 嶋 美 希

(学事調査係)

学生部学生課

学生係長 泉 田 享 一

庶務部人事課

給与係長 堀 口 勲

学生部入試課

入学試験係長 杉 森 伸 平

経理部経理課

給与係長 河 上 孝

人文学部・理学部

文部事務官 川 成 淳 也

(用度係)

文部事務官 庄 司 正文

(管理係)

事務補佐員 上 野 美 幸

(数 学)

事務補佐員 山 本 弘 美

(物理学)

施 設 課

課 長 井 原 紀 男

人文学部

講 師 田 村 俊 介

(国文学)

企画係長 江 藤 憲 和

教育学部

助 教 授 大 森 克 史

(物質科学)

学 生 部

次 長 廣 瀬 義 弘

講 師 内 藤 亮 一

(英米文学)

文部事務官 市 橋 希代子
(会計係)

教 諭 七 澤 邦 彦
(小学部)

臨時用務員 竹 井 公 子
(作業員・農場)

教 諭 泉 溪 正 十
(高等部)

臨時用務員 福 島 春 代
(作業員・農場)

教 諭 山 本 富士子
(高等部)

教育学部附属学校

附属学校 牧 野 秀 應
第一係長

経済学部

教 授 居 林 次 雄
(企業関係法)
《商 法》

文部事務官 田 中 輝 和
(附属学校
第二係)

講 師 瀧 敦 弘
(政策科学)
《経済統計学》

附属小学校

副 校 長 平 井 宗 壽
(音 楽)

理 学 部

教 授 櫻 井 醇 児
(固体物理学)

教 諭 田 中 一 昭
(体 育)

助 教 授 平 井 美 朗
(天然物化学)

附属中学校

教 諭 鎌 仲 徹 也
(数 学)

助 教 授 黒 田 英 世
(環境生物学)

教 諭 田 中 広 光
(社 会)

助 手 小田島 仁 司
(電波物理学)

附属養護学校

副 校 長 小 柴 徹 彦

工 学 部

助 教 授 北 野 博 巳
(生体分子化学)

助 教 授 小 平 憲 一
(細胞工学)

講 師 小 出 眞 路
(計算機工学)

助 手 塚 田 章
(電気システム工学)

助 手 星 野 一 宏
(生物プロセス工学)

助 手 佐 山 三千雄
(生体分子化学)

文部事務官 杉 本 祐 文
(庶務係)

文部事務官 青 木 茂 徳
(経理係)

事務補佐員 柴 田 千賀子
(学務係)

教 養 部

助 教 授 二 村 文 人
(文 学)

助 教 授 藤 田 正 春
(日本語・
日本事情)

講 師 宮 内 伸 子
(ドイツ語)

会 計 係 長 地 崎 昇

教務補佐員 金 澤 智 子
(化 学)

保健管理センター

文 部 技 官 山 端 憲 子
(看護婦)

学 校 医 清 水 幸 裕
(内 科)

学 校 医 武 田 憲 夫
(眼 科)

《住所変更》

経理部主計課

総務係長 新 田 昌 六

教育学部

教 授 丹 羽 洋 介
(絵 画)

教育学部附属教育実践研究指導センター

講 師 吉 田 雅 巳

附属小学校

教 諭 瀬 戸 健
(社 会)

講 師 西 野 精 一
(強度設計工学)

経済学部

助 教 授 飯 田 剛 史
(比較経済論)
《社会学総論》

事務補佐員 藤 田 由 佳
(物性デバイス工学)

助 教 授 酒 井 富 夫
(政策科学)
《農業政策》
講 師 浅 井 尚 子
(民事法)
《財産法概論》

教 養 部
助 教 授 湯 川 純 幸
(英 語)

《改 姓》

工 学 部

事務補佐員 藤 田 由 佳 (旧姓 川島)
(物性デバイス)

工 学 部

教 授 藤 田 宏
(電気システム工学)
附属図書館長



お 知 ら せ

○ 平成3年度における「さわやか行政サービス運動」の推進について

政府「さわやか行政サービス推進協議会」では、昭和63年度以来「国民の立場に立った親切な行政」、「真心のこもった行政」の実現に向け、次の観点に立って「さわやか行政サービス運動」を推進しております。

さわやか行政サービスの観点

「わかりやすい行政サービス」

「迅速な行政サービス」

「便利な行政サービス」

「清潔な行政サービス」

「丁寧な行政サービス」

「安全に配慮した行政サービス」

「人間性に配慮した行政サービス」

本学においても、標記運動の趣旨を踏まえ、特に「窓口サービス」、「国民と接触する公務サービス」について一層の改善に努めることとしていますので、御協力ください。

○ 平成3年度国家公務員安全週間



| | |
|--|------------------------|
| 学部長候補者選挙 | 附属幼稚園修業式 |
| 教授会（人事） | 19日 教授会 |
| 人文科学研究科委員会 | 20日 附属中学校修業式 |
| 真率会送別会（於：高志会館） | 附属養護学校修業式 |
| 14日 係長会議 | 22日 大学院設置準備委員会 |
| 19日 教授会 | 附属小学校修業式 |
| 教授会（人事） | 4月5日 大学院設置準備委員会 |
| 人文科学研究科委員会 | 学部教務委員会 |
| 次期図書委員会 | 学部補導委員会 |
| 25日 学部卒業証書，大学院学位授与式及び卒業 祝賀会（於：県民会館） | 学部教務補導合同委員会 |
| 26日 係長会議 | 人事教授会 |
| 29日 事務連絡会 | 教授会 |
| 4月1日 人文学部・理学部・教養部・水素同位体機 能研究センター防火対策委員会（持ち回り） | 附属小学校始業式 |
| 2日 係長会議 | 6日 附属小学校入学式 |
| 9日 学部教務委員会 | 附属中学校始業式 |
| 教授会 | 8日 授業開始 |
| 教授会（人事） | 附属中学校入学式 |
| 10日 大学院人文科学研究科新入学生オリエンテー ション | 附属養護学校始業式 |
| 12日 新入生オリエンテーション・健康診断 | 附属幼稚園始業式 |
| 15日 係長会議 | 9日 附属養護学校入学式 |
| 17日 入学者選抜方法検討委員会 | 11日 附属幼稚園入園式 |
| 22日 教育実習委員会 | 12日 新入生オリエンテーション及び健康診断 |
| 23日 職業補導委員会 | 17日 大学院設置準備委員会 |
| 24日 教授会 | 人事教授会 |
| 25日 係長会議 | 22日 附属学校運営委員会 |
| 26日 学部補導委員会 | 23日 紀要編集委員会 |
| | 24日 学部補導委員会 |
| | 入学者選抜方法検討委員会 |
| | 人事教授会 |
| | 25日 学部教務委員会 |

| |
|---------|
| 教 育 学 部 |
|---------|

| | |
|--------|------------------|
| 3月12日 | 学部予算委員会 |
| 13日 | 学部教務委員会 |
| | 学部教務補導合同委員会 |
| | 教授会 |
| | 人事教授会 |
| 14日 | 附属養護学校卒業式 |
| 15日 | 附属幼稚園卒業式 |
| 15～21日 | スキーⅡ（於：志賀高原スキー場） |
| 16日 | 附属小学校卒業式 |
| 18日 | 学部教務補導合同委員会 |
| | 附属中学校卒業式 |

| |
|---------|
| 経 済 学 部 |
|---------|

| | |
|------|----------------------------|
| 3月5日 | 係長会議 |
| 7日 | 学部教務委員会（持ち回り） |
| 8日 | 学部施設整備委員会 |
| | 平成3年度私費外国人留学生入学試験選考 委員会 |
| 13日 | 学部教務委員会 |
| | 教授会 |
| 15日 | 学部施設整備委員会（持ち回り） |
| 18日 | 学部入学方法検討委員会 |
| 19日 | 教授会 |

- 4月1日 係長会議
 3日 学部将来構想検討委員会
 教授会
 5日 夜間主コース専門教育課程オリエンテーション
 8日 授業開始
 10日 夜間主コース新入生オリエンテーション
 12日 昼間主コース新入生オリエンテーション
 新入生健康診断
 学部将来構想検討委員会
 大学院経済学研究科委員会
 15日 大学院経済学研究科入学試験
 16日 学部教務委員会
 17日 大学院経済学研究科委員会
 人事教授会
 教授会
 24日 夜間主コース運営委員会
 26日 学部補導委員会

理 学 部

- 3月5日 係長会議
 11日 ガラス工作室運営委員会
 13日 学部教務委員会
 教授会
 理学研究科委員会
 人事教授会
 真率会送別会（於：高志会館）
 14日 大学院構想懇談会
 係長会議
 19日 教授会
 人事教授会
 20日 大学院構想懇談会
 25日 学部卒業証書，大学院学位授与式（於：理学部第10講義室）
 26日 係長会議
 29日 事務連絡会
 30日 教授会
 人事教授会
 4月1日 人文学部・理学部・教養部・水素同位体機能研究センター防火対策委員会（持ち回り）
 2日 係長会議
 8日 学部教務委員会

- 9日 教授会
 理学研究科委員会
 人事教授会
 学部図書委員会
 大学院構想懇談会
 12日 新入生オリエンテーション・健康診断
 学術講演会（科学技術庁新庄雪氷防災支所
 研究員 佐藤篤志）
 15日 係長会議
 24日 学部将来計画委員会
 25日 学部補導委員会（持ち回り）
 大学院構想懇談会
 係長会議

工 学 部

- 3月8日 選考委員会
 11日 教務委員会
 13日 教授会
 研究科委員会
 専任教授会
 18日 当初合格者数検討会
 19日 教授会
 退職者送別会
 4月4日 係長連絡会
 学部教務委員会
 5日 教授会
 研究科委員会
 専任教授会
 9日 安全マニュアル編集作業部会
 11日 学部補導委員会
 12日 学部オリエンテーション
 新入生健康診断
 15日 授業開始
 17日 係長連絡会
 学部学生健康診断
 24日 教授会
 25日 学部補導委員会

教 養 部

- 3月1日 委員会委員見直し検討委員会
 4日 予算委員会

- 将来計画委員会
- 5日 教務委員会
- 補導委員会
- 6日 人事教授会
- 教授会
- 11～16日 スキー実習（於：志賀高原スキー場）
- 4月3日 将来計画委員会
- 教務委員会
- 4日 人事教授会
- 教授会
- 8日 補導委員会
- 教授会
- 10日 大学教育（特に一般教育）改革に関する懇談会
- 教養部オリエンテーション
- 11日 前学期授業開始
- 夜間主コース前学期授業開始
- 17日 教務委員会
- 24日 図書委員会
- 紀要委員会

附属図書館

- 3月4日 係長事務打合せ会
- 25日 係長事務打合せ会
- 4月2日 係長事務打合せ会
- 15日 係長事務打合せ会

- 23～24日 第42回北信越地区国立大学図書館協議会
（於：長岡技術科学大学附属図書館）
- 25日 平成3年度第1回附属図書館商議会
富山県図書館協会代議員会
（於：富山県民会館）
- 係長事務打合せ会

水素同位体機能研究センター

- 3月4日 R・I 特別健康診断
- 20日 第3回水素同位体機能研究センター運営委員会

地域共同研究センター

- 3月14日 岐阜大学関係者視察
- 19日 北海道大学関係者視察
- 4月8日 地域共同研究センター運営委員会
- 12日 大阪府立大学関係者視察

保健管理センター

- 4月10日 新入生オリエンテーション
- 12日 新入生健康診断
- 17日 定期健康診断（工学部3，4年生，大学院生）
- 24日 定期健康診断（教養部2年生）

| | |
|-----|--|
| 編 集 | 富山大学庶務部庶務課 富山市五福3190 |
| 印刷所 | あけぼの企画株式会社 富山市住吉町1丁目5-18 電話 (24) 1755(代) |